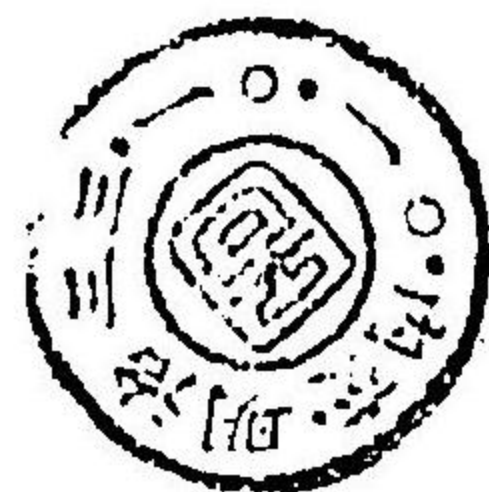


IF4N43

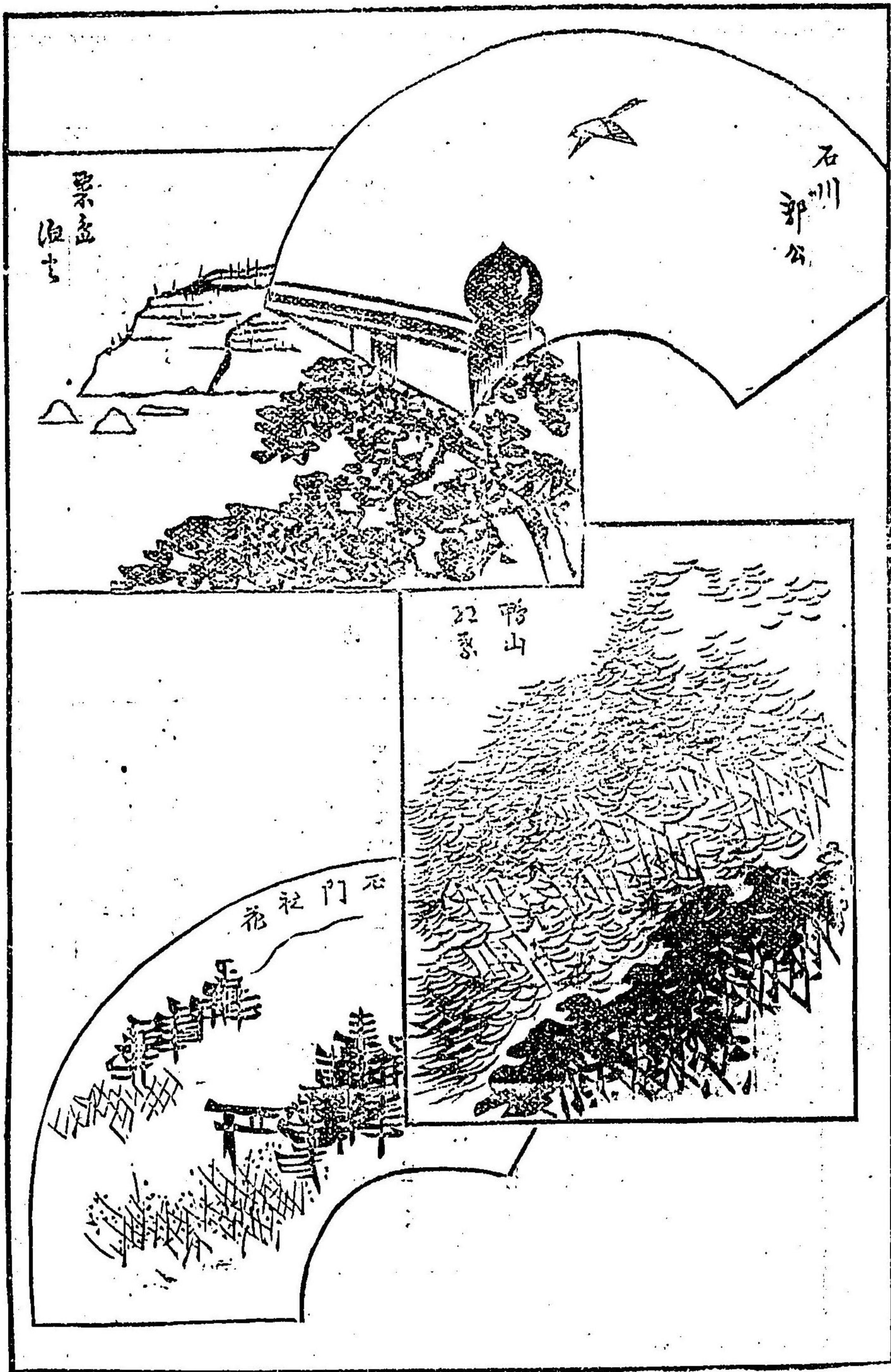
81-499

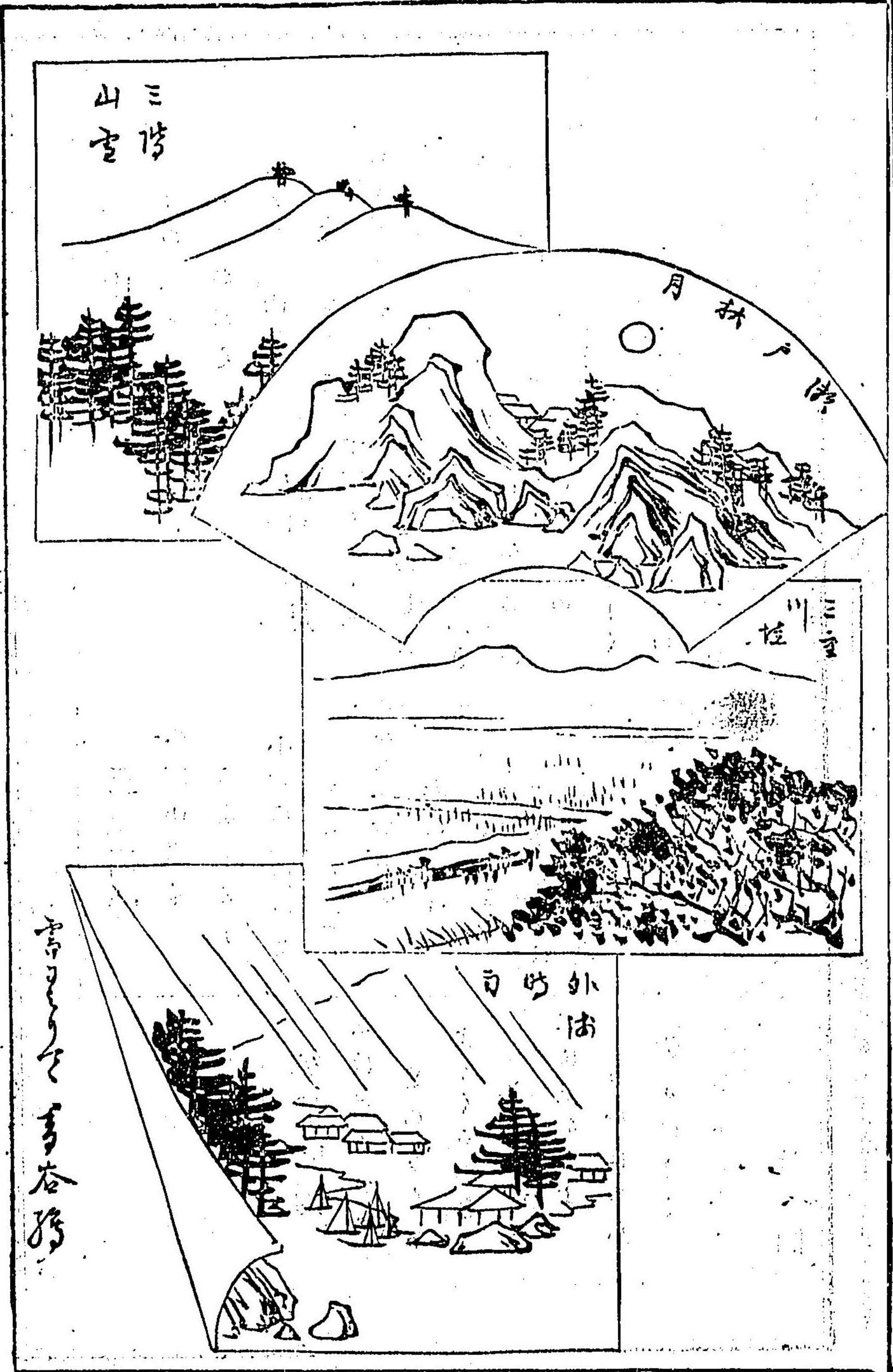
福
田
文
庫
藏



後四位出雲國造

千家言紀著





石川郭公
 さよく流るる
 石川の
 そのおとところ
 たつねきて
 鳴や五月の
 ほとさき
 昔しあからの
 芥ならん

粟嶋漁火
 海人の小船の
 敷をひて
 奇みにゆたけさ
 いさり火の
 かけにうつれる
 粟しまの
 けし神かきそ
 さよらなる

鳴山紅葉
 水よなつさう
 かも山の
 青羽よあらて
 もみちをい
 どりて遊ふと
 をとめこか
 かへるさわさる
 夕日かけ

石門社花
 石門の神の
 敷ませる
 黒川村と
 なのみして
 雪かくもかど
 みつ垣の
 はなのわしたそ
 たくひさき

三階山雪

雲井の空よ

かけわたる

みとしの山よ

ふりつもる

ねもひよたへて

雪のよも

あひと妹かり

通ふかり

瀬戸秋月

千船よりくる

せとのしま

こゝも花たかき

島ひめの

神の馬居の

かけきよく

うつる浪まの

秋の月

三重川蛙

八重山吹も

にはふなり

小田のかはつも

そたくなり

みへの河原の

春のよみ

夕まくれこそ

たうからね

外浦時雨

去は風まつと

どのうらら

よりくる船を

よきかにて

浪にうかるよ

うかれめか

枕よひよく

さよしくれ

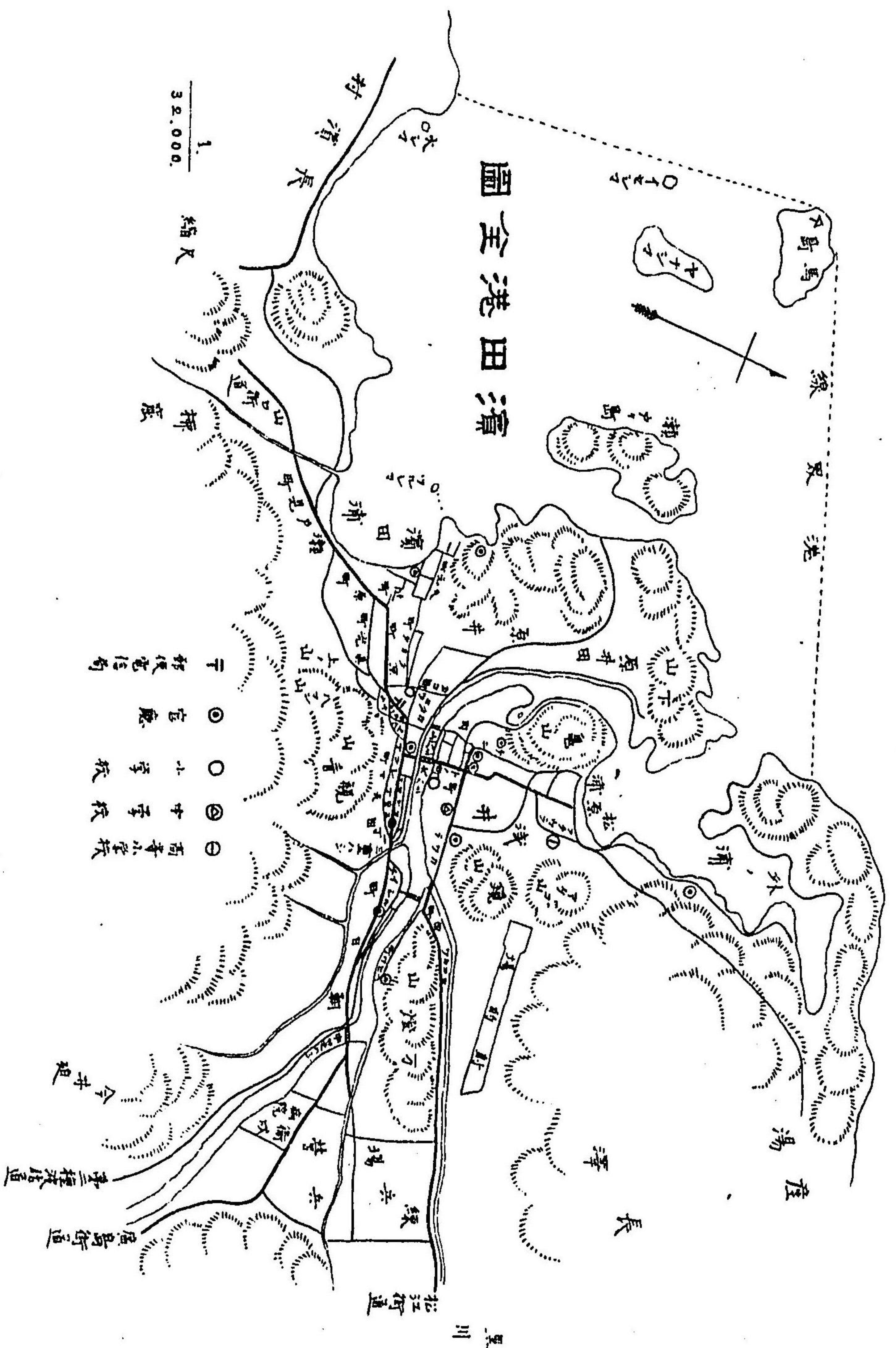
七十八翁 石華仙

自叙

我濱田ハ元來石見ノ中部ニ位シ一章帯水ヲ隔テ、露韓ニ
 面シ相當ノ産物ヲ有シナカラ久シク世ニ知ラレザリシガ
 特別輸出入港トセラル、ニ至リ較世ニ嚙サル、ニ及ベリ
 然レモ尙輕々ニ看過セラレタリ歩兵第廿一聯隊ヲ此地ニ
 設ケラレ次デ貿易港トシテ指定セラル、ニ至リ大ニ世人
 ノ感動ヲ起サシメタリ然ルニ其濱田ヲ知ル者少ナク遇々
 之ヲ知ラント欲セバ先ツ足ヲ擧ゲテ實地ヲ踏マザルベカ
 ラズ之レ濱田ヲ紹介スベキ機關ヲ欠ゲルニ因ル也予短才
 濱田ヲ利スルニ足ラズト雖大ニ我濱田ノ進運ニ關係スル
 點少ニ非ラザルヲ念ヒ杜撰ノ嘲ヲ顧ミズ此書ヲ稿シ世ニ

紹介スル所アラントス我町倭太郎氏大ニ之ヲ賛シカテ盡
 サレタルハ余ノ深ク謝スル所ナリ
 濱田ハ將來多望ノ地位ニ立テリ請レ諸君子須ラク緝テ其
 一般ヲ知得シ大ニ濱田ノ進運ヲ賛ケシメヨ

著者 樂 靜誌



古田武王以前 (元和五年)
 瀨田地圖 (凡三百五十前)



瀨田港突

樂 靜 稿

地勢

瀨田ハ石見第一ノ繁阜ニシテ那賀郡ノ腹部ニ位シ北緯參十四度五十三分東徑百參十貳度五分ニアリ濱田川市街ノ中央ヲ貫流ス地形ハ一邊弧三角形ヲナシ弧邊ヲ東南ニシテ丘陵ヲ負ヒ中央ハ平地ヲ以テ東石見村黒川ニ接シ三角ノ尖端ハ下山ト名ヅクル小丘ヲ以テ北海中ニ突出ス西北方ハ丸木渡ナル海峽ヲ隔テ、瀬戸ヶ島ト相對ス馬島矢筈嶋背後ニ並列シ遙カニ西南長濱ノ天神島ト相扼セリ東西凡廿

氣候

七丁南北十七丁アリテ西北ノ二面ハ共ニ海ニ臨メ
概ムテ温暖ナレモ夏季最モ炎熱ナリ冬季ニ至レバ降
雪少ナキモ風強ク雨多シ又霰霽時ニ至リ陰晴定マ
ラズ温度ハ最高大凡八十九度最低卅三度ナリ

風俗

近來人口ノ増加スルニ從ヒ樸直ノ氣風消散シ漸次輕
薄ニ趣キ總テ進取ノ慨ニ乏シ外觀華奢ヲ競フノ風
アルモ生計ノ度ハ依然低純ナリ

町村

紺屋町新町片庭町蛭子町門ヶ辻町檜物屋町原町辻町
之レヲ濱田八町トイフ之レニ淺井村原井村濱田浦
松原浦ヲ合併シテ戸長役場ヲ置カレシガ後濱田町
ト改稱シ町村浦名ヲ各大字トナセリ三十二年各町
字名ヲ改メ現時ノ稱トス即旭町一丁目同二丁目三
重町榮町ハ新國道改修ノ時新ニ造ラレ爾後定名ナ
カリシヲ之レニ命名セリ錦町ハ舊名土手京町ハ門
ヶ辻檜物屋ヲ合併シ工町ト稱セシナリ眞光町ハ舊
名新道ト稱シ又千足町トモイヒシ由ナリ清水町ハ
舊名上ノ山ト稱シ瀬戸見町ハ舊名青ト稱シ大元町
ハ舊名折戸高田町ハ舊名本原井天滿町ハ舊名日備

戸數

町若宮町ハ舊名一町田殿町ハ舊名大手神明町ハ舊
 名枇杷首又美和町ト稱セラレタルナリ
 嘉永元年ノ調査ニヨルニ家數千二百六十九戸内町部
 ニ五百七十九戸濱田浦ニ二百一十一戸松原浦ニ百八
 十八戸瀬戸ヶ嶋ニ三十九戸馬嶋ニ二戸有シタリ
二百五十戸ノ差異アルハ或ハ
 士家ノ數ナラフカ詳ナラズ 然ルニ明治三十二年八月壹
 日ノ現在ニ徵スルハ總數貳千五百四十六戸ニシ
 テ内町部ニ貳千四十九戸濱田浦ニ百九十戸松原浦
 ニ百八十八戸外浦ニ五十一戸瀬戸ヶ島ニ六十五戸
 矢筈嶋ニ一戸ヲ有スルニ至レリ今之レヲ職業ニ應

シテ區分スルハ左ノ如シ

- 農業 二百一十一戸
- 工業 百三十二戸
- 商業 七百一十二戸
- 漁業 四百七十八戸
- 吏員 三百四十八戸
- 雜業 六百六十五戸

人口

壹萬貳千七百四十八人内男六千五百四十七人女六千
 貳百壹人ヲ居住セシム 三十二年八月一
 日ノ現在ニ係ル

山岳

龜山 大字澁井ニアリ濱田川下流ノ東麓ニ峙立ス濱
 田城ノ在リシ所ナリ古名ヲ鴨山トイフ元和五年古
 田重治築城ノ時龜ノ齡ニナツラヘテ萬代カケテ榮

六
ユナシト號シテ龜山ト名ツケタリトナシ廢藩後ハ
陸軍省ノ所管ニ屬セシガ明治二十三年二月舊城主
松平家ニ拂下ゲラレ其有ニ歸ス城址ノ反別ハ拾八
町壹畝拾四步七合貳夕五才ニシテ高サ三拾六間餘
アリ東麓ニ丈餘ノ石垣アリテ舊形ヲ存ス山頂方一
丁許リノ平面アリ天守閣ノ在リシ所ニシテ松樹森
々天ヲ蔽フ現時軍隊ノ將校主唱者トナリ松平家ノ
地ヲ借り此ニ戰病死者ノ紀念碑ヲ樹テ東岡ヲ拓キ
軍隊ノ屯集所トシ聯隊司令部ノ門前ヲ過ギテ車道
ヲ通ゼントス今ヤ計畫既ニ熟シタレバ建設ヲ見ル
遠キニ非ザルベシ

中岡ニ小祠アリテ雁木明神ヲ祀ル今ハ移サレテ牛
市ニ在リ或ル書ニ山中石下ニ柿本人麿ヲ祀ルトツ
リ或ハ之ヲウシカ益シ鳴山ハ歌聖ノ舊跡ナリト云
万葉集ニ柿本朝臣石見ニ在リ死ニ臨ミ歌一首アリ
鳴山のいはねむまける我をかも
あらしすきいもろまらけあらし
南方ノ上岡ヲ夕日丸ト云フ吉川元春ノ陣所ヲ構ス
シ所ナリ
南麓ハ環ラスニ溝ヲ以テシ又池アリ池端川ニ通ズ
小嶋其中ニ在リ島上亭アリ城主ノ別業ニシテ常人
ヲ入ルヲ許サレシガ今ハ開放セラル東崖數十ノ

楓樹枝ヲ交ヘテ茂生シ紅葉濃ナルノ日池水爲メニ
赤ク池中ノ魚潑漉タリ此亭ヤ今無シ東崖一小亭ア
リ雅客ヲ饗ス
愛宕山 龜山ノ東ニ在リテ相對峙ス山頂愛宕社ヲ奉
祀ス松樹アリ直幹拾余丈天狗松ト呼ブ市街ノ景又
一眸ノ内ニ在リ古來月ヲ以テ賞セラル

鏡山 愛宕山ノ南ニ接續シテ起テリ古名ヲ松山ト云
フ山腹ニ尾上岩藤ノ墳墓アリ墓碑ハ文祿十一年ノ
建設ニ係ルト云フ然レトモ事無根ニ属ス近時山頂
ニ善那先生ノ頌德碑ヲ樹ツ今其碑文ヲ示ス左ノ如
シ

善那先生頌德碑

距今百載善那先生出於英國除數千歲之痘害濟億萬人之夭折東西南
北縱鼻橫目之民无藥有喜石州人建碑於濱田表其德咽余題之且作
頌曰
天地之大人無憾乎堯舜之聖博濟病諸億哉斯人出祛巨害民壽衆濟海
泛東西天有慚色聖亦謂何生民以來未有善那
明治三十二年三月 從三位 長與專齋撰並書

万燈山 兜山又冠山ト稱セリ枇杷首ノ後ヲ擁ス濫井
豐前守ノ居城アリシト云フ
觀音山 濱田川ノ南街中ニ突出シタル小丘ナリ大永
三年尼子氏之レニ據リテ大内氏ヲ防ギ天滿暎ニ於
テ劇戰セリト云フ天滿暎ハ今ノ一丁田是レナリ丘

麓ハ即チ三重河原ニシテ古昔山吹生ヒ茂リテ黄金ノ花咲キ亂レ觀ヲ添ヘシトカ又蛙ノ名所ナリシト云フ按ズルニ古田氏川路變更ノ以前ハ大ナル河原ナリシモノナラン

高田山 原井ニ在リ丘上ニ測候所アリ古ハ樹木繁茂シ郭公ノ名所ナリシト傳フ今ハ瘠畑ト變ジ僅カニ丘形ヲ存スルノミ

三階山 三階村ニ在リ三峯ヲ連ヌ每頂上ニ松樹アリ日月星ノ三神ヲ祭レリ夫木集ニ

渡も暇をつくべくもなご君の代の
三はしのやまのうこまおければ

三階 懷中ニ

渡る道も杖をも流かじ君か代は

三はしの山はうまたなげれの
野島里山翁撰四景ノ一ニシテ詩歌亦多シ

松平武聰

桃花花三は志の末乃山つたひ
おもはず出るのほり流めげん

新清元磨

布引や瀧ハ三階のやまの端に
いちはへかゝるみねは白くも

松翁

天公築出三階山 神女織成帛十端 催雨起雲
吟未了 衆人遍作土峯看

小出 祭

三峯屹立自爲階 月桂松枝夜色佳 一去家鄉

十余歲 如今看畫不勝懷

栗栖山 柳窟ニ在リ一名鷹巢山ト云フ三階山ノ

西方ニ相對峙ス小原主水ノ吉川元春ニ攻メラ

レシ所ナリ

三ツ子山 黒川村ニ在リ岡本美作守ノ城跡ナリ

下云フ

川河

濱田川 古名石川又石見川ト稱ス

万葉集 依羅媛ノ子

けふくじわかまつきみの石川の

貝にまじりやあけむす

たふま逢ひ逢ひゆか終てん石川よ

くもたらわとれ見流ゝ志のはん

新敷撰 讀人不知

朝とよ石見川のみをたえ

とひした人海あひ見てしらな

源ヲ小國村ニ發シ上來原下來原七條青原伊木ヲ經

テ石見村ニ來リ三重ニ至リ三重川及新川ヲ合セ市

街ノ中央ヲ流レ龜山ヲ環リテ松原ノ海ニ注グ
 往時ハ川流ニ岐ニ分レ一ハ三重ヨリ觀音山麓ヲ過
 ギ天滿瞭ニ至リ南部丘陵ノ麓ニ沿ヘ池田ヲ經テ海
 ニ注グ之レヲ青川ト云フ青石ノアルニ因ム元此
 川ハ青石川ト云ヒシヲ石ヲ畧シテ青川ト呼ブニ至
 レリト云フ一ハ河原町ヨリ縣内ヲ經テ龜山鏡山ノ
 間ヲ流レ城山ノ東麓ヲ奔リ湊ヨリ海ニ入リシト云
 フ蓋古田氏築城ノ際地利ヲ案シ二流ヲ合セテ一ト
 シ現今ノ河床ニ改メシモノニシテ掬翠ノ灣入也此
 時ニ開鑿セラレシモノナリト云フ分流ノ形跡ハ今
 尚溝渠ノ現存スルニヨリテ推知セラル下流新橋ヨ

沙海ニ注グノ間水稍深ク和船ノ碇泊スル者多シ藩
 政ノ頃ハ四艘ノ御手船アリテ掬翠灣口ヲ定繫場ト
 ナセリト云フ松平氏ノ時淀及瀬田ノ鯉ヲ養フシ此
 ニ放飼ス之レヨリ大ニ繁殖セリ
 小石川 今俗青川ト呼ブ柳窟ノ溪間ニ發シ青ノ西盡
 ヲリ海ニ入ル往古此近傍ヲ總稱シテ濱田村ト云ヒ
 又小石川村トモ呼ベリ住吉小社アリ夫木集ニ
 石川のつかね昔然たつ糸しを
 あはれとやみえをみよ志の神

新清元曆

むらと誰此よ名つけて石川の
干早ふりに住よむのかみ

松翁

湖水清淺自石川右疆蒼海左山河這邊正有神祠在

吟唱釋氏慈鎮歌

三重川源ヲ今井迫ニ發シ三重ニ至リ河石川ニ入

万葉集

伊保麻呂

わかたきみ三重の河原の心そのうらま

家集

かはかゆかゆとあつかはつかも

壬生忠峯

石見瀉三重の川あみたちかへり

みつよはいかゝやまふきのはな

季經有常

名寄八雲集

ゆふたふみ三重の河原よなくし立て

ゆふかたまけて夏みそまする

新清元磨

澁からぬ三重の河原の色そとき

月よつゆそふまじの山ふき

松翁

郊村有三重河原溪水遠流曾不渾春晩行吟昔人詠

醜醜淨盡鳴蛙存

濱浦

濱田浦濱田港ノ盡頭ナリ漁家藪ヲ並ヘテ汀渚ヲ壓
ス物産會社買盛組魚市場等灣頭ニ在リ諸回漕商店
亦近傍ニ散在セリ
松原浦古昔岩崎ト稱ス万年ヶ鼻ヲ南ニ轉シタル濱
浦ニシテ其西盡ハ即濱田川ノ注之所ナリ建長二年
益田兼時材木糧米ヲ京師ニ送ル丸茂兵衛尉兼忠此
地ヨリ積載シテ進發スト又弘安四年蒙古襲來ノ時
益田ノ家臣末元兵衛兼直此地ニ出張シテ準備ヲ爲
シタリト云フ此浦其頃既ニ市街ノ形勢ヲナセシモ
ノナラン

島嶼

瀬戸ヶ島一葦帯水ヲ隔テ、本地ニ面セリ濱田港頭ノ
水灣入シテ宛然一大海塘ヲナス四時ノ景月ニ宜シ
ク又雪ニ宜シ小西湖ト呼フ久我候ノ命名セシ所ナ
リ嶋ノ中央城址アリ大永三年大内氏ノ臣之ニ據リ
テ尾子氏ヲ拒キタリト云フ此嶋元二個ニ分ル松平
周防守卓堤ヲ築キテ海浪ノ侵入ヲ防ク終ニ接續シ
テ一嶋ヲ成スニ至レリ瀬戸ヶ嶋ノ名ハ往時瀬戸物
ヲ燒出セルニ因ルト云ヘリ
馬島往昔馬ヲ牧シテ以テ此名ヲ得全嶋新町三澤
氏ノ所有ニ屬ス故ニ一時三澤嶋ト稱セシヤアリ瀬

戸ヶ嶋ノ背面ニ在リ嶋中嚴嶋神社ヲ祀ル北端ニ千
 疊敷ト稱スル平坦ノ崖宮海上ニ屹峙シ高拾余丈嶮
 壁水面ヲ伏脱スヘカラス然レモ夏時釣遊ニ適ス近
 時燈臺ヲ此地ニ設ケラレ大ニ風趣ヲ添ニ
 矢筈嶋 馬嶋ト相隣レリ往時ハ樹木繁茂セシモ今ハ
 伐採セラレ舊形ヲ存セス古來笹嶋ト相誤リ勝景ノ
 中ニ數ヘラル然レモ笹嶋ハ高嶋ノ別名ニシテ此嶋
 ノ謂ニアラス

鶴嶋 濱田港内ニ在リ大ニ港内ノ風致ヲ加フ岩上一
 老松アリ昔時隱岐ノ舟夫濱田ニ來リ阿鶴ト云フ女
 ト契リヲ結ヒタリ幾クモナクシテ女粧メリ因テ伴

ヒ歸ラシトテ乞フ舟夫今ハ上リ船ナリ須ク下リ船
 ナ待ツニ下答フ女憤懣溺レテ死ス故ニ其屍ヲ此
 島ニ葬リ松ヲ植テ墓標トス是ヲ以テ鶴嶋ト名ツケ
 タリト云フ

海港

濱田港 矢筈嶋ト長濱岬ト相對シテ一大灣ヲナシ而
 シテ北方瀬戸海峡ノ開ク所即チ濱田港ナリ周圍二
 十五丁余深サ十五尋稍巨船ヲ容ルルニ足ル
 外浦港 古名姥ノ懷ト稱ヌ万年鼻及蠻ヶ鼻ヲ港門ト
 シ海水深ク灣入セテ周圍十八丁深サ十二尋港内稍
 狭シト雖モ風徐ロニ波穩カナルヲ以テ碇泊ニ便ナ

リ故ニ帆檣常ニ林立シ風景亦掬スヘシ歷代ノ城主
世々別業ヲ此地ニ設ケシト云港岨琴平神社アリ殿
祠宏壯嶮岨ニ坐シ水面ニ挺出ス殿内踞シテ灣内ヲ
眺ムヘシ周防守康豐ノ造營セシ所トス此地元妓樓
アリ一時繁盛ヲ極メシモ今ハ濱田川下畔ノ花下化
ネリ灣ノ盡クル所ヲ田ノ尻ト稱ス津和野藩倉庫ノ
アリシ所ト云フ

長濱港 濱田浦ヨリ連續シテ西端黒崎岬ヲ以テ北馬
島ト相扼シ一大港灣ヲ爲ス之ヲ長濱港トス明治三
十二年七月勅令ヲ以テ濱田港界ヲ定メラシ長濱モ
亦濱田港ニ包含セラルニ至レリ港内水深ク船舶

又碇泊ニ便ナリ戸數六百五十八戸人口三千五百八
十八人ナ有シ一市街ヲ成セリ街頭商號大黒屋ト稱
スル竹田商店アリ吳服太物舶來織物等御小賣ヲナ
シ石見一般小賣店ノ需要ニ應ス其賣上價格實ニ國
内ニ冠タリト云フ

今各港ニ出入スル船舶ノ統計ヲ掲クレハ左ノ如シ然
レモ二十石未満ノ船舶ハ其數夥多ニシテ數ヲ知ル
ニ難シ故ニ二十石以上ノモノ、ミテ掲ク而シテ明
治三十一年中ノ總數ハ和船入港九千二十一艘出港
九千四艘汽船入港三百九十三回出港三百九十三回
ナリ而シテ漸次汽船ノ數ヲ増シ航海ヲ盛ナラシム

ルノ設計アリ大ニ運搬ノ度ヲ進マシムルニ至ルヘシ

月次	和船帆船入部	和船帆船出部
三十二年	六二九	六二六
二月	四二九	三〇四
三月	四〇〇	三三五
四月	五〇〇	五二八
五月	五九五	五〇七
六月	六四七	六五四

岬角

万年ヶ鼻古名ヲ十三ヶ鼻ト云フ十三年毎ニ此處ニ溺死スル者アルニ因リ寶曆年中今ノ名ニ改ム下山又東北海ニ向テ斗出スル小岬ニシテ外浦港ノ關門

チナキ...

蠻語鼻ニ万年ヶ鼻ト相對セリ岬頭惠比須神社ノ小祀

アリ此鼻元一小島ヲ成セリ松平周防守波濤ヲ防ク

タメニ堤塘ヲ築テ連續セシメタル者ナリト云フ

粟嶋 粟嶋山ノ汎稱ナリ粟嶋神社アリ海ニ面セリ小

西湖ノ景掌中ヲ見ルガ如シ勝景ヲ以テ名ズリ北麓

ノ海濱ハ即檜ヶ浦ナリ永祿五年福屋民部少輔兼隆

ツ出雲ニ道レシトキ出船セシ處ナリト云鹹水中ヲ

得水亦淺シ來テ海浴ヲ試ムルモノ多シ

嶋崎 濱田港内鶴嶋ニ對スル小岬ニシテ即住吉社ノ

社頭ナリ地高クシテ近クハ長濱ノ市街及高嶋ヲ望

勝地

西長門ノ海ヲ見ルハシ粟嶋ヲ共ニ勝景中ニ數ニ
 愛宕山秋月
 高閣危峯頂清霄對月光却疑秋未老巨見瀨山霜
 都ニもかくやすむらんあたき山
 木の間よりみよの月を見るか那

連理松

時 東 知 自

空野横昏雨捲雲連理松材鱗已老恐夜化為龍

文 雄

枝かわす松のこまゆる夕月夜

枝かわりうすぬて小雨ふりきぬ

文 雄

枝かわす契もふかき松風の

雨はふる夜そゆかむかりける

鳴山晴嵐

城樓高幾似粉壁映江潭中有千松茂四時鎖翠風

文 雄

立つく松間にはれたる龜山の

潮のまはらし枝もあらさす山は

祭

祭

石見瀉しほきりはれて龜山の

松よふきたつあさあらしかあ

大橋夕照

知白

城外探幽去黄昏盡醉歸橋頭望更好千嶂掛殘暉

紅のちりとしつめて紅よ

文雄

紅のちりとしつめて紅よ

文雄

夜田池水ぬる庭庭大波は

祭

伊東祐命

原井落雁

天外銜芦雁來賓舊宿邊排行針整陣嘹唳下平田

文雄

原井田のおくてのみしぬ色つきて

あひく穂のへはおつるかりかね

祭

沖つかせあらく吹くらし原井田の

たのもよかりの群のおちくる

千江浦歸帆

知白

山斷江流濶浪花日夜翻遙憐布帆影出沒向幽村

文雄

長閑ある干江の浦わの夕なまよ

ほてうちつれてかへるともふね

祐命

並松の干江の浦ふねかへるらん

このまのほかけちかつまよけり

知白

妙智寺晚鐘

蕭條山寺晚亂島繞林端何所鐘聲響上方增暮寒

文雄

さらぬたよ夕へさひしき山里の

小てらまひよくいりあひのかね

祐命

三つ五つぬよゆく鳥の影みえて

てらものふかきかねのおとかな

知白

三階山雪

聳空階嶽秀形勢壓郊豪日暮峯頭雪寒光凝更高

文雄

三階山夕くれかけてふりつめる

ゆきよの冬も日あかよりけり

祐命

墨染の夕へのゆきも三階山

まつ姿はかくさよりけり

以上ヲ濱田八景ト云フ松平武聰ノ撰スル所ナリ此

外疊浦鍋石瀼柳窟桃ヲ三勝トス此八景三勝ハ畫卷
 トシテ松平家ニ秘藏セラレ小出榮河齋伊東祐命
 伊東祐真ノ序跋ヲ誌セリ今其詩歌ヲ摘載セルノミ
 今井迫 濱田ノ東南十五丁溪谷一面桃樹ヲ植ユ柳窟
 ト相競フ

柳窟 濱田ノ西南十丁余小石川ノ上流ニアリ桃林ヲ
 以テ名アリ春風台蕩ノ天雅俗ノ遊賞スル者多シ即
 三勝ノ一ナリ又野嶋里山翁ニヨリ濱田四景ノ一ニ
 數ヘラル

松平武聰

みはし山つもる深雪の東風

こゆすれてなかるゝ柳窟のこと
 春光此處別乾坤無限桃林一二村貪勝溪流行欲尽花
 深苔厚似仙境
 冠童五六攀壺樽舉觴咏桃花千樹村境靜日幽興熱風
 光彷彿武陵源
 産湯井 長澤ノ産湯浦ニ在リ昔和泉式部此處ニテ小
 式部ヲ誕生シ山ノ井ニテ洗フ婦人此井ノ石ヲタシ
 ナメハ安産スト云フ宗抵法師ノ歌ニ
 石見かた産湯の浦の潮よ

人をばくはで人よりなる

古戦場

天滿暲 大永年中尼子經久、大内義興ト戰ヒシ所ナリ
 石川 元龜元年吉川元春周布三隅征伐ノ時三神本次
 郎左衛門三角惡五郎此所ニ陣セシト云フ
 栗栖山 吉川元春小原主水ヲ攻戰セシ所ナリ
 濱田城 慶應二年幕府長征ノ令ヲ下ス六月ニ至リ山
 陰山陽ノ兵日ヲ刻シテ進ム福山ノ兵先石州ニ入ル
 先鋒阿部正清邑智郡粕淵ニ至リ俄ニ病ム乃チ進ム
 ナ得ス其一隊進テ益田ニ陣ス濱田ノ兵四百之ニ屬
 ス敵將井上多聞兵八百ヲ率テ之ヲ侵ス正方武聰ノ

兵激戰之計却ク此夜敵大村永敏ヲ將トシ精兵三千
 ナリ以テ來襲ヲ勢頗猖獗ナリ正方武聰共ニ利ヲ失フ
 軍監三郎刑部及武聰ノ將山本半彌以下將卒多ク之
 死ス遂ニ益田ヲ棄テテ三隅ニ退ク是時軍監長谷
 川久直郎等數人津和野城ニ在リ城主龜井將監歎テ
 毛利氏ニ納メ久三郎等ヲ捕ヘ之ヲ長州ニ押送ス於
 是長兵輒ク進出ヲ得ズリ故ニ益田ヲ占ムルヤ直ニ
 榜示シテ長州領ヲ書ス此時和歌山ノ老安藤直裕兵
 二千ヲ將トシテ周布川ニ軍シ鳥取ノ兵長濱ニ陣シ
 松江松山ノ兵ハ雲雀山ニ而シテ正方武聰ノ兵ハ大
 麻山ニ屯テ七月長兵濱田ヲ襲ハント欲シ來テ大

麻雲雀ノ兩陣ヲ衝ク正方等ノ兵力戰ヒシカリアラ
 ズシテ退ク此ニ於テ敵兵勝ニ乘シ間道ヨリ周布川
 ノ背後ニ出テ之ヲ攻メ和歌山ノ兵周章戰ハスシテ
 潰走ス敵ノ勢益慄慄當ルヘカラズ諸軍悉ク濱田ヲ
 死守セシトス直裕亦兵ヲ收テ濱田ニ入ラントセリ
 然レモ拒テ入レズ其兵ノ尪弱恃ムヘカラサルヲ以
 テ直裕憂悶郷田ニ退ク諸軍急テ廣嶋ニ告ク淺野
 茂承砲兵八百ヲ遣ハシ之ヲ援ケシム永敏人ヲシテ
 濱田城ヲ致シユトテ勸ム武聰肯カス永敏怒リ大
 舉シテ濱田ヲ薄ク鳥取松江松山ノ兵之ヲ激フ克ク
 ス武聰亦銃ヲ悉シテ之ヲ拒ク然レモ敵鋒愈鋭シ和

歌佛ノ兵之ヲ聞キ又戰フノ意ナシ直裕即チ備後ヲ
 經テ潛ニ廣嶋ニ退ク正方ハ相淵ニ在リテ病益篤ク
 終ニ福山ニ歸ル武聰亦病ヲ得兵ヲ親ル能ハス城壘
 終ニ完カラサルヲ思ヒ火ヲ城ニ放チ海ニ航シテ難
 チ避ク諸軍亦皆退キ城壘終ニ鳥有ニ歸セリ

神社

石見天豐足柄姬命神社 殿町ニ在リ式内縣社ニシテ
 郷社ヲ兼々五月九日ヲ祭日トス社後ニ古榎繁茂ス
 石神ヲ祀ル神代穴門國ト稱セシトキ恠石アリ崇リ
 テチス迦種田命之ヲ水臣津野尊ニ告ク尊阿麻刷久
 麻杼命ヲシテ之ヲ八岐ニ裂キテ後患ヲ除カシ給

フ現今殿後七石ヲ存シ玉璫ヲ結ヒ環ヲスニ注連繩
 ナ以テス濱田ノ名稱ハ此阿麻杼ノ轉訛セシモノナ
 リト云ヒ又八岐ニ因ミシモノナリトモ云フ境内碑
 アリ由來ノ一端ヲ窺フヘシ社ハ文政元年ニ再建セ
 ラレ爾後又衰頽セシヲ明治七年祠宇ヲ修造セシモ
 ノナリト云碑ニ曰

石神社記

石神社祀石見天豐足柄姬命也世傳神祀石事其說妄誕不可信蓋神創闢石見
 國有功德於民故民祀祀也觀其列在式內當時祠宇之壯祠典之隆可知焉中古
 巨降禍亂相踵頽敗而不修者數百年
 王政維新廢藩置縣信寬承乏地方奉
 朝廷敬神之旨原石神之所由詳其年興復於是新作祠宇舉祀典職爲縣社欲使
 縣民永有尊崇也祀之以緱乎石

濱田縣權令 佐藤信寬撰

同縣實屬 堀松隆書

境内又芭蕉國井豐竹ノ碑アリ國井トハ紺屋町鍛冶
 工國次ト云ヒ豐竹ハ澁井田町ノ和田半六ノトナリ
 共ニ句ヲ以テ名アリ近年誹諧好句ノ人ニヨリテ樹
 ラル

龜山神社 縣社ノ傍ニ在リ十一月廿五日ヲ以テ祭日
 トス殿宇石神社ト相列ス明治二十一年藤井宗雄首
 導者トナリ廿五年ニ至リテ工成リ碑ヲ此ニ樹テ社
 ナ營ミテ龜山神社ト號シタリ碑表ニ曰
 茨田城主歴代碑

其碑陰ニ曰

濱田城元和五年二月古田重治所創築也爾來易姓四歷代十八閱年二百五十有一

至明治二年六月松平武聰時廢焉王政維新之由矣今茲建碑于其址勒城主姓名以傳不朽如左

大膳大夫古田重治 元和五年二月從伊勢國松坂移寬永二年十一月廿五日本

兵部少輔古田重恒 繼封年月闕慶安元年六月十六日卒無嗣而家

周防守松平康快 慶安二年八月從播磨國兒栗移寶永二年十二月晦日卒

周防守松平康宜 延寶三年二月繼封享保十二年四月九日卒

周防守松平康貞 寶永二年正月繼封正德三年三月廿二日卒

周防守松平康豐 寶永六年九月繼封寶曆九年正月移封于下總國古河

中務大輔本多忠敬 寶曆九年正月從下總國古河移同年七月十日卒

中務大輔本多忠盈 寶曆九年八月繼封明和四年閏九月十六日卒

中務大輔本多忠肅 明和四年十一月繼封六年十一月移封于參河國岡崎安永六

年五月八日卒

周防守松平康福 從下總國古河移于參河國岡崎明和六年五月又封于此地寬永

九年二月八日卒

周防守松平康定 寬政九年四月繼封文化四年三月廿二日卒

大

周防守松平康任 文化四年五月繼封天保十二年七月廿二日卒

大

周防守松平康壽 天保六年十二月繼封七年九月移封于陸奥國棚倉明治元年五

月三日卒

右近將監松平齊厚 天保七年九月從上野國館林移十年十一月五日卒

右近將監松平武揚 天保十年繼封十三年十月廿八日卒

右近將監松平武成 天保十三年十二月繼封弘化四年九月廿日卒

右近將監松平武聰 弘化四年十二月繼封慶應二年七月移于美作國鶴田明治十

五年十一月七日卒

明治廿五年六月建之

八幡宮

大字蛭子ニ在リ村社ナリ陰曆八月十五日ヲ

祭日トシ濱田町全部之ヲ祭ル往時祭典神幸ノ當時

天幕藩侯ヨリ供御トシテ弓槍ヲ贈ラシ八町谷浦亦各

或ハ山車ヲ出シ或ハ種々ノ作物ヲ以テ賑ヒテ盛飾

セリ今稍廢レリ然レモ鑼馬ノ式ノミハ尙存セリ
 天満宮 村社ナリ蛭子ニ在リ祭日陰曆六月廿五日ナ
 新町蛭子ノ兩町之ヲ祀ル境内ニ姫柄社アリ昔時
 城山ニ在リシヲ維新ノ際此ニ移サレタリ
 蛭子社 天満宮境内ニ在リ陰曆十月二十日ヲ祭日ト
 ス此日ハ全町蛭子購トテ殊ニ商家ハ得意先及懇家
 ナ招饗シ以テ年中繁昌ノ祝ヲナス此社ハ元蛭子町
 ノ中部ニ在リシヲ此ニ移セリ
 若宮社 若宮町ニ在リ祭日陰曆九月十九日ナリ
 大元社 大元町ニアリ祭日十月亥日ナリ
 大歳社 村社ニシテ濱田浦ニアリ陰曆九月十九日之

ヲ祭ル

住吉社 嶋崎ニアリ祭日陰曆六月三十日ナリ此日ハ
 備馬樂トテ近村ヨリ牛馬ヲ索キ來リテ海浴セシメ
 家畜ノ病難ヲ免ルト稱セリ
 栗嶋社 栗嶋ニ在リ上巳ノ節ヲ祭日トス此日ハ各家
 争テ童女ニ行厨ヲ持タシメ遊娛セシムルヲ習慣ト
 ス故ニ多ク此ニ來リテ宮上崖下ニ席ヲ構ヒ歡ヲ尽
 シ遠近ノ郷人亦來詣スル殊ニ多キヲ以テ大ニ賑ヘ
 嚴嶋社 村社ニシテ瀬戸ヶ嶋ニアリ祭日陰曆六月十
 八日ナリ近郷十里内外ノ人來詣シ多クハ夜ヲ徹シ

セリ今稍廢レリ然レモ鑼馬ノ式ノミハ尙存セリ
 天満宮 村社ナリ蛭子ニ在リ祭日陰曆六月廿五日ナ
 新町蛭子ノ両町之ヲ祀ル境内ニ姫柄社アリ昔時
 城山ニ在リシヲ維新ノ際此ニ移サレタリ
 蛭子社 天満宮境内ニ在リ陰曆十月二十日ヲ祭日ト
 ス此日ハ全町蛭子購トテ殊ニ商家ハ得意先及懇家
 ナ招饗シ以テ年中繁昌ノ祝ヲナス此社ハ元蛭子町
 ノ中部ニ在リシヲ此ニ移セリ
 若宮社 若宮町ニ在リ祭日陰曆九月十九日ナリ
 大元社 大元町ニアリ祭日十月亥日ナリ
 大歳社 村社ニシテ濱田浦ニアリ陰曆九月十九日之

ヲ祭ル

住吉社 嶋崎ニアリ祭日陰曆六月三十日ナリ此日ハ
 催馬樂トテ近村ヨリ牛馬ヲ索キ來リテ海浴セシメ
 家畜ノ病難ヲ免ルト稱セリ
 栗嶋社 栗嶋ニ在リ上己ノ節ヲ祭日トス此日ハ各家
 争テ童女ニ行厨ヲ持タシメ遊娛セシムルヲ習慣ト
 ス故ニ多ク此ニ來リテ富上崖下ニ席ヲ構ヒ歡ヲ尽
 シ遠近ノ郷人亦來詣スル殊ニ多キヲ以テ大ニ賑ヘ
 巖嶋社 村社ニシテ瀬戸ヶ嶋ニアリ祭日陰曆六月十
 八日ナリ近郷十里内外ノ人來詣シ多クハ夜ヲ徹シ

今社殿ニ參籠シ狹少ノ島地實ニ立錐ノ地ナキニ至
 須賀神社 村社ニシテ淺井村ニアリ七月七日神輿濱
 田浦大歲社ニ渡御アリ十三日海路還幸セタル至町
 ノ老幼狂奔シテ大ニ之ヲ賑ハス相殿ニ新莊八幡宮
 ヲ奉祀ス
 嚴島社 村社ニシテ松原浦ニ在リ陰曆六月十七日ヲ
 祭日トシ來詣ノ人亦多シ
 琴平社 外浦ニ在リ陰曆三月十日六月十日九月十日
 皆之ヲ三回之ヲ祭ル殊ニ九月祭ハ俗ニ二萬日ノ拜禮ヲ
 兼ヌルト稱シ來拜スル者夥シ

天満宮 田町ニ在リ祭日ハ六月廿五日トス以前ハ來
 福寺山ニ在リシヲ近來此地ニ移セリ
 淺井神社 淺井村ニ在リ村社ニシテ末社ニ古田大膳
 大夫重治ヲ祀レリ
 神明社 神明町ニアリ相殿新清元曆ヲ祀ル
 八幡宮 産湯浦ニ在リ
 大元社 長澤村ニ在リ
 八幡宮 黒川ニ在リ社家地ト云フ村社ナリ祭日陰曆
 八月十六日ニシテ鑼馬ノ式ヲ行フ
 天石門別神社 黒川ニアリ三宮ト稱ス式内ニテ縣社
 ニ列ス祭日一月廿五日九月十九日ナリ

秋葉社 牛市町ニ在リ相殿ニ讚樹權現及厂木大明神

寺院

淨土宗長安院 蛭子町ニアリ松平家ノ菩提所ニテ代
入位牌ナク墓標アリ家中士卒ノ墓アリテ存セリ
禪宗寶珠院 眞光町ニアリ境内ニ古田大膳大夫重治
又墓アリ銘曰休岩寺殿關雄崇之大居士トアリ
禪宗洞泉寺 眞光町ニアリ境内ニ吉川元春女院墓アリ
法名周信源固大童子ニアリ
眞宗眞光寺 眞光町ニアリ

禪宗觀音寺 同町ニアリ

眞宗顯正寺 同町ニアリ

眞宗光西寺 八原町ニアリ

淨土宗專稱寺 眞青ニアリ

淨土宗十念寺 八原町ニアリ

禪宗西藏寺 八辻町ニアリ

淨土宗極樂寺 濱田浦ニアリ境内ニ德川秀忠公ノ石碑

天法尊號台 德院殿一品大相國公尊儀奉古田兵部少

輔重恒造立アリ

眞言宗寶福寺 折戸ニアリ

禪宗地久寺 折戸ニアリ昔古田兵部少輔重治ノ家老

古田左京ノ子其他拾人當寺ニ於テ斬殺セラレ
禪宗玉林寺 原井ニアリ境内ニ繁澤千代ノ墓アリ大

華院殿智岳源厚大童子トアリ

天台宗釋迦堂 笹屋町ニアリ

眞言宗太子堂 片庭ニアリ

淨土宗心覺院 松原浦ニアリ

法華宗妙智寺 祇園谷ニアリ松平家ノ菩提寺ナリ境

内ニ松平右近將監大乘院殿詣山大居士及敬乘院殿

妙感日照大姊ノ墓アリ又松平周防ノ守ノ建立ニ係

ル經藏堂アリ

天台宗來福寺 鏡山ニアリ以前城ハ山ニアリシト云

法華宗龍泉寺 田町ニ在リ境内ニ加藤肥州ヲ祭ル祭

日ハ陰曆六月廿四日ニシテ參詣ノ人夥シ

眞言宗多陀寺 長澤村ニアリ境内ニ熊野權現ヲ祀リ

又稻荷社ヲ祀ル陰曆二月初午ヲ祭日トス近村ヨリ

參詣ノ男女頗多シ又境内ニ聖廟國司ノ墓アリ

禪宗善福寺 黒川ニ在リ國本美作守ノ菩提所ニシテ

今尙位牌ヲ存ス

眞言宗神正寺 杉堂ニ在リ藥師佛ヲ祭レリ眼病ノ人

多ク參詣ス

廢寺

禪宗惠顯寺ニ今ノ長安院ノ地ニ在リシト云フ後折戸

ニ移シ終ニ廢寺トナル

淨土宗廣運寺 眞光町ニ在リシト云フ

淨土宗專向寺 原町ニ在リシト云フ

眞言宗觀音院 三重ニ在リシト云フ

眞言宗明運院 紺屋町ニ在リシト云フ

禪宗龍勝院 植町ニ在リ現時小學校ノアル所ナリ

宗教 町民ノ多クハ熱心ナル眞宗信者ナリ近郷亦同シ

而シテ事苟クモ寺堂ニ關スル金錢ト努力トナ惜マ

ス致々之ニ從フ耶蘇教ハ一個ノ教會堂ヲ有シ信徒

殊ニ少シ

官署

那賀郡役所 大字淺井字縣内ニアリ明治五年三月大

區役所ヲ置カレシ以來佐々布温之ニ長タリシカ明

治九年濱田支廳ヲ廢セラレ嶋根縣ニ合セラレ明治

十二年一月元縣廳々舎ヲ充用シ郡役所ヲ置カレ佐

々布尙續テ郡長トナレリ爾後十八年ニ至リ赤間赴

城之ニ代リ廿三年井關百合藏之ヲ襲キ廿九年矢野

湛之ヲ承ケ三十年橋本求職ニ就キ卅二年ニ至リ現

任猪股定重能義郡長ヨリ轉シテ赴任セリ

濱田町役場 濱田八町及松原浦濱田浦原井村ヲ併セ

テ戸長役場ヲ置カレシカ自治制實施後ハ八町松原

浦原井ノ幾部及淺井ノ幾部ヲ一括シテ濱田町トシ

役場ヲ置クニ至リ俵平吉竹川富三郎等町長ノ職ニ在リ横山直内ハ明治三十二年當撰シ現在セリ山田信太郎助役タリ全三十三年位置ヲ大字紺屋ニ移セ

石見村役場ノ戸長役場ノ時代ハ黒川外四ヶ村浦戸長役場ト稱シ黒川村淺井村長澤村細谷村松原浦ヲ合併シテ一轄シ三宅武彦之ニ長タリシカ廿二年四月石見村役場ヲ改設スルニ及ビ黒川村ノ内字黒川ノ一部長澤村全部淺井原井細谷ノ各部分ヲ合シ石見村ト總稱シ之ヲ管スルニ至リ石津平造之ニ長トシ

明治二十五年十一月宇津寅市之ニ代リ二十六年三月

田村登職ニ就キ三十二年一月現任千代延房次郎認可就職セリ

長濱村役場 舊來長濱外十二村ヲ以テ役場ヲ置カレタリシカ爾后各村分合シ長濱熱田日脚三村ヲ聯合シ管轄セラレタリ自治制實施後長濱熱田ヲ合併シ長濱村ト稱セリ村長ハ二十三年二月以降岩本紀右衛門之ヲ勤メ二十五年二月齋藤富治代テ當撰シ二十九年三月岩本梅太郎撰ニ當リ現任中ナリ

濱田稅務署 大字淺井ニアリ元來明治十六年十月租稅檢査員派出所トシテ大字蛭子ニ設置セラレ小口卯三郎草野一雄相次テ主席ニアリ廿二年收稅部出

張所ト改稱シ廿三年九月間直稅分署トス厨川榮直稅分署長ニ中澤儀太郎間稅分署長タリ廿六年ニ至リ島根縣收稅署トセラレ石原重外署長ニ任セラルル次テ廿九年十一月濱田稅務署ト改ム石原署長元ノ如シ卅一年十一月現任署長原茂彦之ニ代レリ卅一年位置ヲ變シテ淺井トス

濱田神戶稅關支署 大字濱田浦ニアリ明治廿九年十一月一日濱田神戶稅關出張所トシテ設置セラルル三十年六月ニ至リ今ノ名ニ改ム三十年七月ニ至ル迄ハ稅關屬並稅關監吏杉田六藏支署長タリシカ田島如茂之ニ代リ三十二年三月稅關事務官補兼稅關監

視佐々木直一之ヲ襲キ現任中ナリ

小林區署 大字黒川字美和町ニアリ現時高橋源市署長タリ廣島大林區署ニ屬ス

濱田郵便電信局 舊時ハ電信郵便各局ニ分レタリシカ濱田郵便電信局ト稱セラルルニ及ビ榮町ニ新築セラレ郵便局設置ノ當初ヨリ卷金次之ニ長トシテ現今猶在職セリ

濱田測候所 大字原井字高田山ニ在リ明治廿六年一月一日ヲ以テ開始セラルル同所ハ二等測候所ニシテ毎日午前二時六時十時午後二時六時十時ノ六回定時觀測ヲ爲シ特ニ天候險惡ノ際ハ每一時間若クハ

三十分毎ニ臨時觀測ヲ爲ス而シテ中央氣象臺ヨリ
 毎日全國天氣豫報ヲ受ク若シ全臺ヨリ天氣警報ニ
 接シタルキハ直ニ暴風信號標ヲ掲ケ(夜間ハ球燈)合
 ゼテ縣下各警察署及分署ニ電報シ警戒セシム而シ
 テ明治廿七年七月地震計觀測ヲ開始セリ猶養蠶期
 中ハ(四月廿一日ヨリ六月十日マテ)各郡役所(隱岐嶋ヲ除ク)天氣豫報ヲ
 發シ漁業期中ハ隱岐島廳ヘ天氣ヲ豫報ス且天氣豫
 報信號旗ヲ掲ケ一般公衆ニ示ス卅一年七月ヨリ濱
 田郵便電信局間ニ電話機ヲ架設シ正午報ヲ受クル
 一晝夜六回ノ觀測ヲ八回トナセリ今所長ノ交替
 シ一晝夜六回ノ觀測ヲ八回トナセリ今所長ノ交替

ヲ舉クレハ開所以來多賀謙吉之ニ長タリシカ廿九
 年十月嶋根縣第二尋常中學校長利根川浩兼任スル
 ニ至リ爾後全校々長ノ兼任スルコトナリ現時篠原
 武之ヲ主管ス
 濱田驗潮所 宇淺井外浦ニ在リ石造ニシテ器械完備
 セリ元那賀郡役所之ヲ督セシカ現時ハ陸軍部ノ所
 管ニ歸セリ
 馬嶋燈臺 馬嶋ニ在リ明治三十一年五月十日設置セ
 ラル構造ハ煉瓦石造白色圓形第一等級及燈質ハ第
 五等廻轉白色ニシテ十五秒時毎ニ二閃光ヲ連發ス
 基礎ヨリ燈火ニ至ル高二丈五尺水面ヨリ十丈九尺

アリテ其光能ク十六海里半ニ達ス番守員主任トシ
 テ野田清二郎勤務セリ
 松江地方裁判所濱田支部 大字原井ニ在リ濱田始審
 裁判所ト稱セラレシカ制度改革以後松江地方裁判
 所ノ支部トセラレ濱田益田大森ノ三區裁判所ヲ管
 ス富田真一之ニ長タリ今回位置ヲ鏡山麓ニ移シ現
 時新築中ニ係ル

濱田區裁所 地方裁判所濱田支部ト併置セラル而シ
 テ郷津今市三隅ノ登記所ヲ管轄ス
 濱田警察署 大字新町ニ在リ郷津三隅ノ分署ヲ管ス
 中山門署長タリ

濱田監獄支署 大字淺井ニ在リ郡役所ト背列セリ大
 船則義支署長タリ

兵事

兵事思想ハ兵營移轉ト開港後屢軍艦ノ來航スルトニ
 伴ヒ大ニ發達シ軍人志望ヲ抱クモノ多キニ至レリ
 歩兵第廿一聯隊 二十九年秋季ヨリ測量ニ從事シ三
 十年ニ至リ工事ヲ起シ三十一年八月廿五日三個大
 隊此ニ轉營セリ營内六棟ノ兵舍及大隊本部將校集
 會所彈藥庫被服庫兵器庫營倉等ノ建設アリ各兵舍
 ハ二箇毎ニ庖厨浴室瀝洗洗濯所魚菜調理所等ノ附
 屬建物アリ陸軍歩兵大佐竹中安太郎聯隊長タリ

聯隊區司令部 城山ノ東麓ニ在リ卅二年五月工成リ
 松江ヲ引拂ヒ此ニ轉シタリ陸軍少佐伊津野千里司
 令長官タリ
 憲兵屯所 旭町ニ在リ建築ノ以前ハ大字紺屋ノ民家
 ナ充用セシカ卅二年四月該所ノ工事落成セシナ以
 テ之ニ移レリ
 衛戍病院 大字黒川ニアリ國道ヲ介ミテ兵營ト相向
 ヘリ病室ハ最モ意ヲ用テ設計サレタルモノニシテ
 諸般不足ノ憾ナシ

學校

濱田地方ニ於ケル中等教育ノ沿革ヲ畧叙スルハ明治

八月濱田教員講習所ヲ設ケシヲ噶矢トシ校舍ハ民
 有シ産紙會社ヲ購求シ之ニ充テタルモ構造不完全
 設備不整頓ナリシカ同年十月濱田師範學校ト稱ス
 ルニ及ビ稍學校ノ体面ヲ有ツニ至レリ而シテ修業期
 ハ十月下ニシテ五級ニ分テリ十一年二月菅真教ヲ主
 席教員トシ教則ヲ更メニケ年ヲ修業期トシ上下ノ
 二等ニ分テ各之ヲ三學級トセリ爾後十三年六月之
 ヲ廢シ濱田中學校ヲ新設ス椋木潛ヲ主座教員トシ
 稍高等ノ普通學ヲ授クルニ至レリ十六年三月那賀
 郡長佐々布温校長ヲ兼任シ教育上ノ擴張ニ力ム同
 年九月濱田師範學校ヲ併置ス十七年六月佐々布温

解職教諭大岡哲幹事ニ兼任ス七月石原欽造校長ニ
 任セラル（十七年四月濱田師範學校ハ松江師範學校ト合併セリ）
濱田中學校ハ島根縣第二尋常中學校ト改稱セリ）
 十九年五月勅命ニ基キ廢校ノ止ナキニ至レリ於
 是中等教育ノ途殆ント杜絶ス廿年八月那賀郡ノ各
 町聯合シテ元中學校々舍及敷地ヲ購買シ高等小學
 校ヲ設立シ（高等小學校ニ加フルニ中學豫備科ヲ以
テス廿四年四月地方税ノ補助ヲ得テ石見學校ヲ起
シ中等教育ニ必要ナル科目ヲ教授ス然レモ各町村
ハ之ヲ以テ満足スヘキニアラス中學校ノ設立ヲ希
望シテ止マラス終ニ其成效ヲ見ルニ至レリ故ニ石見
學校ニ校舍書籍器械ヲ舉ケテ之レヲ寄附シ郡立高

等小學校ハ之レト同時ニ廢校セリ
 島根縣第二尋常中學校ハ明治廿六年四月開校セラレ
 爾來入學ノ生徒漸々増加シ校舍狹隘ヲ告クルヲ以
 テ三十一年ニ至リ校舍及寄宿舎ヲ新築シ大ニ中等
 教育ヲ隆盛ヲ見ルニ至レリ設立以來本年度ニ至ル
 迄四十九名ノ卒業生ヲ出シ而シテ現時四百九十二
 名ノ生徒ヲ收容ス
 校長ノ交替ヲ掲クハ左ノ如シ
 校長代理 教諭 田中清之助 當分代理
 法學士 石田氏幹
 教諭 利根川 浩
 廿六年五月就職
 廿八年四月就職
 三十一年七月就職
 三十二年四月休職

教諭 西館武雄 三十年五月就職

教諭 鈴木鼎 全三十年十二月就職

教諭 中原貞七 現三十一一年十月就職

師範學校講習部 明治三十一年四月創設セラルル第壹

期定員生徒五十名ニシテ安濃郡一名邇摩郡三名邑

智郡七名那賀郡廿五名美濃郡九名鹿足郡五名ヲ出

シテ職員ハ專任教諭岡村鉉太郎永廻藤一郎ノ二氏

ニシテ森本兼之丞林翹二ノ二教諭ハ中學校ヨリ兼

任シ教授ノ任ニ當リ校舎ハ當初中教院ヲ充用セ

ル現時田町河上甚壽郎所有之養蠶室ヲ以テ之ニ

充メ

鳴根縣高等女學校 明治三十三年四月縣令第三十號

ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ得テ設立セラルル而シテ位

置以テ高等小學校敷地全部ヲ收容シ之ニ充テ五月一

日ヨリ開校セリ

高等小學校 大字淺井ニアリ在籍生徒數二百六十六

人ヲ有シ經常費千九百九拾八圓八拾錢ヲ以テ維持

セリ職員ハ訓導兼校長一人訓導七人准訓導二人雇

用教員六人合計十六人教授ノ任ニ當リ書籍器械標本

等合計二千七百五點此價格八百八十四圓六十八錢

ヲ有セリ學務委員ハ六名ニシテ内三名ハ職員中ヨ

リ兼任ス校長中村豐年ハ學校設立ノ現時ヨリ勤續

セリ而シテ高等女學校設立セラレシニヨリ該校敷地ニ充用シ更ニ宇福浦ニ新築スルコトナレリ現今敷地工事施行中ナリ

尋常小學校 大字原井ニアリ明治廿五年六月ノ新築ニ係ル大字原井及宇福浦ケ嶋ニ分教場ヲ有シ在籍生徒數八百六十二人十三學級(内單級一雜式)ニ分ル職員ハ校長一人訓導七人準訓導四人雇員四人計十六人ニ依テ教授セラレ書籍器具標本等ハ七千三百八十點此價格千貳拾六圓貳拾七錢五厘ニシテ校費ハ經常費臨時費ヲ合算シテ貳千貳百九拾五圓八拾錢

中村豐年氏高等小學校ヨリ兼任セリ

中教院 若宮町ニアリ明治八年神道及六宗合同シテ之ヲ立ツ後神道ニテ之ヲ維持スルコトナリ神道講究分署トナスマタ嶋根縣神職取締所ヲ兼ヌ即チ神官及教導職ノ共立ニ歸ス講師ハ佐伯藤井篠田氏ヨリ現今三好氏教職ノ任ニ當レリ

楓川教校 片庭町ニアリ明治八年六月濱田縣ニ認許ヲ經テ開設シ爾來繼續シ來リ卅二年九月私立學校令ニ依リ更ニ嶋根縣ノ認可ヲ得タリ程度ハ佛教ノ外尋常中學校ト同等ノ科目ヲ教授ス現時生徒數三十四名ヲ收容ス而シテ廿八年以後卒業生ノ總數三十四名ナリ真宗本願寺派嶋根教區ヲ管セリ

病院

總監ハ紀齋生佐々木鳴熙清基秀全相次テ就任シタ
 リ明治三十一年九月下間教證氏職ニ從ヒ現任中ナ
 リ明治三十三年縣知事ノ認可ヲ經テ佛教中學校ト
 改稱シ專ラ宗教及中等教科ヲ教授スルニ至リ
 龜城醫院ハ大字蛭子ニアリ陸軍々醫出張シ患者ノ
 診ニ應ズルニ至リ
 濱田病院ハ大橋ノ北崖ニアリ山本清藏ノ創設スル所
 則天堂醫院ハ新町大橋通ニアリテ尾畑強兵ノ開業ニ
 中係

剽塲

三浦診察所ハ新町字飯田町ニアリ
 財滿診察所ハ真光町ニアリ
 澄川診察所ハ旭町ニアリ
 各院患者ニ接スル懇切ニシテ難患苦疾能ク治スルヲ
 得
 縣立驅黴院ハ字縣内ニアリ
 町有避病院ハ字原井田ニアリ
 衛生ノ點ニ至リテハ元來土地高燥空氣鮮淨殊ニ市内
 ニ衛生組合ヲ設ケ公私ノ衛生ニ注意スルヲ以テ流
 行病患者等非常ニ稀ナリ

演劇場ハ明治座トテ明治三十年ニ建築セラレ關西第一ノ劇場トシテ稱セラレシカ惜ムヘシ昨春祝融ノ災ニ罹リ灰燼ニ歸セリ故ニ仮ニ若宮座(字一丁田元)ヲ建テ興行場トス現時明治座再築ノ設計中ナリ

遊廓

遊廓ハ大字原井字下山麓ニアリ近時續々建築セララル外浦ヨリ片庭字胴子町移轉以後ハ僅カニ一二戸ヲ以テ舟夫ヲ導クニ止マリ盛衰定マリナカリシカ兵營ノ建設ニ伴ヒ職工等ノ多ク來リ且ツ兵士ノ入營セシ以來俄カニ數ヲ増シ稍盛榮ヲ見ルニ至レリ然レモ卅年遊廓地ヲ町外ニ移スノ目的ヲ以テ地ヲ字

遊技場

下山麓ニ指定セララル該地ハ一面ノ葦沼又ハ荒蕪地ナルヲ以テ過般來土工ニ着手シ傍ヲ建築ニ忙カハシ三十三年一月以降此ニ移轉セリ工成ルノ日ハ地盤モ舊來ノ地ニ四倍シ家屋ノ建築モ自由ニ設計シ得ヘケレハ大ニ体面ヲ改ムルニ至ルヘシ娼妓ノ數ハ八十二名アリテ客ヲ待セリ

遊技場ハ近時僅カニ空氣銃射的球突等ノ遊技場ヲ散

見ス

料理店

料理店ハ其數多ケレモ優ルモノ少ナシ藝妓ハ三十四

宴會場

名ニシテ各客席ニ忙カハシ

不老園 濱田灣南涯ノ一小亭ナリ嘉永年中外船ノ來
 襲ニ備ヘシ砲臺ノアリシ所ナリ亭ヤ海ニ瀕シテ小
 中湖ト相望ミ宇蓋碧波ニ映シ湖聲俗聽ヲ洗フ和船
 帆ヲ收テ錨ヲ投シ瀛船波ヲ蹴テ去ル扁舟短艇其間
 ニ葉泛瓜流スルノ景一窓ノ下ニ落ツ殊ニ漁火ノ散
 點スルニ至テハ其景得テ言フ可ラス四時ノ景又鬱
 テ散スヘシ故ニ俗人職客ハ散策ヲ企ツルモノ絶ヘ
 ス
 俱樂部 町ノ南丘長安寺山ノ腹部ニアリ遙ニ濱田外

會社

商業ノ旺盛ニ從ヒ漸次繁昌ニ趣ク

浦ノ兩港ヨリ外海ヲ望ムヘク市街ノ眺望亦足下ニ
 アリ倦ヲ遺ルニ足ル

社名	營業種別	所在地	創業年月	資本總額	拂込資本	積立金	利足配當	株主數	社長又ハ頭取氏名	取調年月
株式會社	銀行營業	濱田浦	十八年十一月	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一分	一三	岡本俊信	二十二年十一月
株式會社	支金庫銀行營業	濱田浦	十二年十二月	三〇〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一分	四九	堀魚居	全
株式會社	銀行營業	濱田浦	十一年三月	一五〇,〇〇〇	七五,〇〇〇	三五,〇〇〇	四分	一九	坂本太郎	全
株式會社	海船荷客取扱	濱田浦	廿四年九月	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三八,〇〇〇	一分	三	小林藤一郎	全
株式會社	海船荷客取扱	濱田浦	廿七年一月	六五,〇〇〇	四八,五〇〇	一六,〇〇〇	一分	四	岡本俊信	全
株式會社	海船荷客取扱	濱田浦	廿二年	五〇,〇〇〇	一七,五〇〇			二〇	依三九郎	全
株式會社	海船荷客取扱	濱田浦	創業中	五,〇〇〇				三	同 人	全

三 塲

塲名	製造品名	所在地	持主名	創業年月	職工	原動力	機關數	公稱馬力	摘要
濱田生糸塲	生糸	大字原井	佐々木 富次	二十六年	男 六 女 六	蒸氣力	一	五五	
濱田三浦織物塲	羽二重反物 金巾類	高尾山ノ下 縣内古城山	三浦 幸治		男 七 女 七				
粗陶器製造所	粗陶器	外ノ尻	千代延幸一郎		男 七 女 七				
粗陶器製造所	全	全	西山 品藏		男 七 女 七				
粗陶器製造所	全	助原 木井	三澤 又八		男 六 女 六				
礮銃製造所	礮銃	新 町	牛尾 茂一		男 六 女 六				
石水社製糸塲	生糸	石見村中芝	大谷 仙助	廿六年 八月	男 九 女 九	蒸氣力	一	三五	
瓦製造所	瓦	長 澤	吹迫 早太		男 六 女 六				
粗陶器製造所	粗陶器	石見村原井	白川 喜作		男 二 女 二				
瓦製造所	瓦	石見村淺井	川神 寅吉		男 九 女 九				
瓦製造所	瓦	全	森脇 藤次郎		男 二 女 二				

農 民

瓦製造所	瓦製造所	粗陶器製造所	粗陶器製造所	瓦製造所	瓦製造所	濱田活版所	日進活版所	明治活版所	竹川活版所
石見村長澤	古和 新一	全	南谷 力太郎	全	佐々木 卯三郎	全	全	全	全
全	埜 與三郎	全	千代延幸一郎	全	龜谷 多作	全	全	全	全
全	全	全	川神 徳次	全	川神 徳次	全	全	全	全
全	全	全	倭 平吉	全	倭 平吉	全	全	全	全
全	全	全	石本 文次郎	全	石本 文次郎	全	全	全	全
全	全	全	卷 四方吉	全	卷 四方吉	全	全	全	全
全	全	全	竹川 富三郎	全	竹川 富三郎	全	全	全	全

石見村ハ大部分ヲ占メ濱田町ニ於テハ全戸數ノ殆ソ
ト四分一ニ過キス食用及特用農産物トシテ數ヘラル

モノノ産額ハ左ノ如シ(三十一年分)

品名	作付反別	收穫高	價額	品名	作付反別	收穫高	價額	品名	作付反別	收穫高	價額
麥	六九,〇〇〇	九六九	三三	青芋	一〇,〇〇〇	三三	五五	茄子	一〇,〇〇〇	四〇〇〇	三〇〇
大豆	二一〇,〇〇〇	二四〇	二二	實綿	五〇,〇〇〇	三三	二七	牛蒡	五,〇〇〇	一,〇〇〇	八〇
小豆	七〇〇	四四	四	楮皮花	五〇,〇〇〇	三	七	馬鈴薯	二,〇〇〇	三〇〇	一五〇
粟	四〇,〇〇〇	三三	二	諸豆類	一〇,〇〇〇	八	五	蜀黍	五,〇〇〇	六〇〇	三〇
蕎麥	二,〇〇〇	三三	一〇	大根	六〇,〇〇〇	二五	四〇	玉黍	三,〇〇〇	八〇	五
雜菜	一〇,〇〇〇	二二	五	南瓜	四〇〇〇	六	四	胡瓜	五,〇〇〇	八〇	八〇
葱	二〇,〇〇〇	二四	三	菓實	一〇,〇〇〇	二	六	甘藷	一八,〇〇〇	六〇,〇〇〇	三,五〇〇

商家

往時ハ因循ノ風多ク商品等ニ直仕入ヲナスモノ甚々
 稀ナリシカ今時ハ争フテ原産地ニ取組ヲ爲シ大ニ價
 額低廉ニシテ品質善良ノモノヲ擇フニ至レリ

職人

家屋建設及設計替等非常旺盛ノ現況ニ迫リ供給ニ不
 足ヲ告クルヲ以テ他郷ノモノ來テ從事スル者亦多
 シ

日傭

近來事業ノ勃起スルニ從ヒ大ニ需要ヲ増シ從テ其勞
 役賃金ノ如キモ稍昇騰セリ

物産

産地ハ近郷各所ヨリスルモ皆濱田港ヲ經過スルヲ以
 テ區別シ難シ故ニ輸出入物貨表ヲ作り之ヲ示ス左
 如シ

輸出物貨統計表

三十一年十二月三十一日關

品目	數量	價額	輸出先	原料產地
牛紙	八三〇 <small>九</small>	八四六五五 <small>四</small>	大坂 東京 長崎	那賀 美濃 邑智 鹿足ノ各郡
生糸	八九 <small>九</small>	三九一六〇	橫濱	蘭產 那賀郡 邑智 遠慮郡ノ各村
銅	六〇,四〇〇	一三三〇七	大坂	邑智郡 鹿足郡 那賀郡
鉄	五四,六〇〇	一六三三三	大坂 北海道	那賀ノ沿岸
銑	一三,四六〇	三三四六	全上	全上
乾魚	九〇,三〇〇	二七〇六〇	大坂 馬關 廣島 伯州	濱田及近海
鹽魚	一八九,三〇〇	四八三六	全上	全上
錫	一五,〇四〇	二〇八〇	馬關 但馬 因幡 朝鮮	全上
瓦	一四〇,四〇〇	一八八三三	馬關 因幡 朝鮮	濱田及近海
陶器類	五四,八〇〇	二五五三	大坂 馬關	全上
扱等	六七,二〇〇	五二七〇	大坂	邑智郡 乙原 因原 川上 川戸 市山 那賀 郡 波佐 多
生蠟	一七〇,一〇〇	三三,三六	全上	濱田ノ近海

品目	數量	價額	輸出先	原料產地
桐材	三二五,〇〇〇	四八,五五	九州 朝鮮	全上
板類	二四,〇〇〇	一六八四〇	全上	全上
白炭	二五八,八〇〇	一〇,五三	九州 朝鮮	全上
酒	五〇 <small>五</small>	一三,五〇六	北海道 對州	全上
材木類	一一,〇〇〇	一四,三三	九州 朝鮮	全上
燐寸軸木	三〇,二一	三,〇四	大坂 長崎	波佐村 雲城村
錘	一八,二〇〇	七,〇九	朝鮮 神戶	美濃郡 遠田近海及濱田
香茸	二五,八〇〇	四,三六八	大坂 東京 長崎	邑智郡 奧部及那賀郡 美濃郡
椎茸	四,〇〇〇	二,四八〇	全上	波佐 雲城等
五倍子	三,一九〇	一,〇八	大坂	各所
楮皮	三三,九一〇	九,五六	大坂 若狹 馬關	那賀 遠慮 美濃ノ各郡
下駄材	一八三,三〇〇	九,二六一	大坂	濱田 近海
燧粉	四二 <small>四</small>	三,二五	全上	美濃郡 那賀郡ノ奥部
割竹	三七,一〇〇	九七	加賀	濱田近海 高津近海
牛骨皮	一,一三三 <small>八</small>	五,三三	大坂	濱田

雜品	五、三〇〇	二、三〇〇	九州 大坂	濱田 近郷
雜品	三〇、三〇〇	六、四〇〇	若狹 大坂 馬關 門司 長崎	全 上

輸入物貨統計表

明治三十一年十二月三十一日調

品目	数量	電價	額	輸入先	備考
米	一五、六五三	一七、二六四	二七、二六四	大坂 神戸 馬關 九州 朝鮮 支那 因幡 伯耆	兵營ノ移轉以來益其増加ヲ見ル如シ
大麥	九〇四	六、二八四	六、二八四	九州	全 上
小麥	一八八	二、四二〇	二、四二〇	全 上	菓子職屋ノ増加益加リコレハ其増入ヲ 來スコ至ルヘシ
大豆	八、三四五	六、三五八	六、三五八	九州 朝鮮	
蕎麥	二、七六八	一、八〇九	一、八〇九	九州	
小麥粉	二、五六一	七、六八三	七、六八三	大坂	菓子屑ノ益増加スル傾アリ故ニ其増加 ヲ見ルヤ必セリ
素麵	一、六〇〇	六、四二六	六、四二六	大坂 馬關	
干芋	五、八八八	一、六七七	一、六七七	肥前	
食鹽	一〇、九四三	二、四七五	二、四七五	九州 馬關 播州	
酒	七、三六	一、八四〇	一、八四〇	大坂 神戸 筑前	

洋酒	三、四四五	二、八二〇	二、八二〇	大坂	需用者益増加ヲ見ルノ傾アリ自然數量 ノ増加ヲ見ルヘシ
醬油	二、八〇〇	二、〇八〇	二、〇八〇	出雲 伯耆 萩	
砂糖	四、三、四〇〇	二、五、二二五	二、五、二二五	大坂 馬關	菓子製造ニ伴ヒ漸次増加ス
菓子	九、七〇〇	一、九、一九三	一、九、一九三	大坂	
干鰯	五、五〇〇	五、五〇〇	五、五〇〇	廣島 馬關	
吳服	一、六、二一〇	七、五、六〇九	七、五、六〇九	大坂 東京	
洋皮物	三、〇、〇〇〇	三、四、四〇〇	三、四、四〇〇	全 上	
糸類	三、三、三〇〇	六、六、四〇〇	六、六、四〇〇	大坂 廣島	
綿類	四、九、九〇〇	五、三、二七六	五、三、二七六	大坂 廣島	
古着類	四、八、四〇〇	三、一、二六六	三、一、二六六	全 上	
小間物類	六、七	八、五、四〇	八、五、四〇	大坂 東京	
葛類	一、〇、三、五〇	五、五、五〇	五、五、五〇	大坂 關 九州	人口ノ増加ト共ニ益多額ノ輸入アリ
燐寸	三、七、〇〇	二、一、二〇九	二、一、二〇九	大坂 廣島	
石油	七、〇、四七	一、七、四四〇	一、七、四四〇	大坂 神戸 九州	
種油	一、〇、〇一	二、〇、七二五	二、〇、七二五	大坂 馬關	

石炭	二四三,000	三,七九〇	肥前・門司	製糸場一個増加セヨヨリ本年ヨリ増加ヲ見ルコト至ルヘシ
金物類	九〇三,九〇〇	二九,二九〇	大坂・東京	
陶器類	二八四,〇〇〇	六,〇〇〇	大坂・九州	
漆器類	一〇四,〇〇〇	三,四八〇	大坂	
硝子器具類	一三〇,〇〇〇	三,六〇〇	全上	
諸紙類	二五九,〇〇〇	二四,五三〇	東京・大坂	出雲
藥品類	二二五,〇〇〇	二四,四八〇	大坂	支那
書籍類	四一六,〇〇〇	七,八四〇	大坂・東京	
履物類	二二〇,〇〇〇	五,一〇〇	全上	
吳座類	五二〇,〇〇〇	一三,〇〇〇	尾道・七島	
建具類	四〇四,九〇〇	三,四六二	大坂	廣島
荒物類	二二〇,〇〇〇	二四,八三〇	大坂	馬關
雜貨	二二〇,〇〇〇	三,八四三	大坂・東京・馬關	九州・萩
火藥	二九二,〇〇〇	六,八〇〇	大坂	
板類	二八五,〇〇〇	一五,九三三	秋田・若狹・長州	兵營工事ノ爲メ非常ニ多額ヲ要セヨ

材木類	二二五,八〇〇	二四,八七〇	全上	全上
石灰	五二,一〇〇	五,七三二	四國	伯耆

其他稅關ヲ經テ外國ニ輸出セラルモノハ
輸出ノ部
(明治三十年)

仕向地	品名	價	格	仕向地	品名	價	格
浦鹽斯德	擬洋紙	一八五,〇〇〇	浦鹽斯德	化粧石鹼	七〇,〇〇〇		
全	諸紙類	三三,四五〇	全	家具	六五,〇〇〇		
全	綿フヲナル	二四〇,〇〇〇	全	麥酒	一六,〇〇〇		
全	竹器	七五,〇〇〇	全	麥粉	一三,四〇〇		
全	玻璃器	三三,七〇〇	全	米	二,四〇〇,〇〇〇		
全	洗濯石鹼	九〇,〇〇〇	全	食鹽	三,一八三,八〇〇		
全	洋傘	二五,〇〇〇	全	茶麵	七,一〇〇		
全	皮革器	六二,五〇〇	全	金屬器	一〇,七〇〇		
全	醬油	三九,〇〇〇	全	綿メリヤス	一〇,九〇〇,〇〇〇		

仕向地	品名	格	仕向地	品名	格
元山	米	一八〇〇〇	元山	鹽	
全	毛ノリヤス	六五〇〇	全	素麵	一〇、〇〇〇
全	諸絹布	八八〇〇〇	全	諸棉布	六〇、〇〇〇
元山	米	一三〇〇〇	釜山	木炭	四四、〇〇〇
釜山	鐵製品	一四、〇〇〇	釜山	木炭	四九、九〇〇
釜山	鐵製品	一四、〇〇〇	釜山	木炭	四九、九〇〇
全	絹布	六〇〇〇	全	足袋	一五、〇〇〇
全	粧飾品	四、〇〇〇	全	手拭地	三、〇〇〇
釜山	酒	一三、七〇〇	釜山	諸食料品	四七、七〇〇
浦鹽	衣裳及什屬品	一〇、八五〇	浦鹽	鐵釘	七、〇〇〇
木浦	竹材	六、八〇〇	浦鹽	石炭	一、〇〇〇、〇〇〇
浦鹽	諸無稅品	一、四、五、一、九〇	釜山	木材及板	六、八、一〇〇
合計		二、六、四、五、四、〇〇			

輸出ノ部

(明治三十一年)

仕出港	品名	格	仕出港	品名	格
全	洋傘		全	鐵製品	一〇、〇〇〇
全	鐵製品	二八、七、五〇	全	諸食品	二、三、七、〇〇
全	生金巾	三、〇、〇〇〇	全	棉フランクット	六〇、〇〇〇
全	炭	七、五、〇〇〇	全	石油	八、八、〇〇〇
釜山	木炭	八、六、九〇〇	釜山	磁器陶器	一、九〇、〇〇〇
木浦	無稅品	六、七、八、〇〇	木浦	無稅木材	三、二、〇〇〇
釜山	木材板	一、五、七、五、〇〇	元山	酒	六、〇、〇、〇〇〇
合計		一、五、三、三、三、〇〇			

輸入ノ部

(明治三十年)

再輸入品		輸入ノ部		(明治三十一年)	
仕向地品名	格	仕向地品名	格	仕向地品名	格
浦鹽故其餘	三三三〇	浦鹽故亞鉛	八二二八〇	浦鹽	一四〇三九八五〇
韓國米	二二八二五〇	韓國油	八八三三〇	韓國豆類	一七五九六〇〇
全干	四六三三〇	雜貨	一〇四四〇〇	木浦石花菜	一四〇三九八五〇
合計	二九六三三〇			韓國油粕	一七五九六〇〇
				全干	三六〇〇〇
				全有稅雜貨	三六〇〇〇
				全小麥	六三三〇〇
				合計	一七〇一〇七六〇
茶	六〇〇	諸食物	六〇〇		

輸入合計	米	石	諸釀造酒	無稅雜品
一七二五四九〇	諸種子	操綿	地席	計
	一〇〇〇〇	四〇〇〇	三三九〇	三三三三〇

漁業

漁業ハ近來大ニ發達シ産額亦大ニ増加セリ漁船ハ百七十二艘アリ内百十四五艘ハ遠洋漁業ニ從事シ朝鮮支那近海ニ出漁シ大抵一年ヲ通シア歸ル今濱田町漁獵ノ産額ヲ掲クレハ

鹹水産

(明治三十一年分)

名稱	數量	價格	名稱	數量	價格
----	----	----	----	----	----

名	稱	數	量	價	格	名	數	量	價	格
雜食料	藻		二二〇		五	合	計	一五七〇		三九七
海	苔		二五		六	稱	布	一三〇		二〇
鮑			五三		三〇	石	菜	五〇〇		六〇
章	魚		二二		三〇	海	鼠	三〇		八〇
雜	魚		一五〇		四〇	鳥	賊	二二八		二二〇
鱒			五〇		一〇〇	河	豚	五三三		三三〇
真	鱈		三二〇		六〇〇	海	鯨	九〇		一八
鮭	魚		三三〇		五五	膽	殘魚	三〇		〇
鮭			八〇		三〇	鱒		四〇		一〇
甘	鯛		一〇〇		一八〇	イ	カケ	一六〇		二〇〇
鱈			三〇〇		五二〇	鱈		一八〇〇		五五〇
鱈			一〇〇		五〇	石	首魚	二五		七
鱈			一〇〇		二〇	眞	鯛	一六〇		三八八
鱈			二二六		一五〇	黃	貂魚	五〇六		三〇〇

水産製造物

(明治三十一年)

名	稱	數	量	價	格	名	數	量	價	格
一	番		一八〇		四二八	二	番	二二八		二八六
乾	鮭		二二〇		四〇	煮	乾	四六〇		一四二
乾	鮑		四〇		八二	乾	鯛	三〇		一八二
乾	鮭		四三		一五〇	乾	鯛	五三三		二二八
乾	鮭		八〇		三〇	乾	河豚	一三三		四九二
乾	甘鯛		三六		二九	鹽	鯛	一六〇		六九
鹽	鯛		四二八		一六八	鹽	鯛	八		六
鹽	鯛		三六三		三〇二	鹽	鯛	一四〇		三三
合	計		三〇七四		一八四七					

屠畜

屠牛ハ夏期漁獲ノ多キ季節ハ屠殺セス一ケ年平均二

百七八十頭ニ過キサリシガ轉隊後ハ二ヶ所ノ屠殺場ヲ設ケ夏冬ノ候ニ係ハラス需要ニ應スルニ至リ一ヶ月平均五十六頭九分ノ統計ヲ見ルニ及ヘリ

車夫及車數

從來明治二十年ノ頃ハ僅ニ一二輛ノ人力車ト十輛内外ノ荷車トニテ人力車ノ如キハ市街ノ外ハ客ヲ乘ラシムヘキ道路ナカリシタメ全ク無用ニ屬セシカ今ヤ道路モ完備シ人力車七十輛ヲ有ス荷車ノ如キハ百九十六輛ノ統計ニ及ヒ猶日ニ増加ス

新聞紙類

濱田商況日報ト稱スル日刊ノ新紙アリ商況ニ關スル

一切ノ事項ヲ網羅シ大ニ商界ノ機關タリ川上三八郎編輯ノ任ニ當レリ政界新聞トシテハ目下企畫中ニシテ川上甚壽郎等主唱トナリ印刷器械購買其他準備中ナリ遠カラス發刊スルニ至ルヘシ

地理及沿革

按スルニ古田氏土工以前ニ在テハ濱田ノ中央部ハ礫瞰ニシテ家郷ヲナセシモノニアラス漸次修築セラレタルモノ、如シ古ク新町ヲ中島ト呼フ如キ或ハ原町ヲ吹キ上ケト稱スル如キ其舊時ノ形勢ヲ推スヘシ(吹上ケトハ風浪ノタメ砂土ノ吹キ上ケラレタ

ルニ因ルカ)而ノ明治五申年ノ震災ハ實ニ激烈ニシ
 テ濃尾ノ震災モ尙及ハサリシモノアラシ市巾家屋
 概テ顛覆シ從テ延燒シ人畜ノ死傷夥シク實ニ可憐
 ノ境遇ニ沈淪シタルモノナリ(大橋河原ニ小屋ヲ作
 リ粥ヲ焚テ一般ニ分與ス 陛下此慘狀ヲ聞召サレ
 金壹千圓ヲ賜フ)此震災カ如何ニ地勢上ニ變遷ヲ與
 ヘタルカナ聞クニ城北ノ(小濱松原浦ノ西尽)ハ從來
 ノ三分ノ二ハ潮水來リ僅ニ一分ノ沙濱ヲ存シ又青
 川海岸ハ冬季波浪ノ激スルキハ洗ヒ去ラレシモノ
 今ハ反テ九尺余ノ高サトナリ且崖邊幾部ノ濱地ヲ
 見ルニ至リタリト又大橋川ハ裳ヲ蹇ケテ涉ルヲ得

ヘシト雖也以前ハ水深クシテ能ク小艇ヲ浮ヘ得シ
 ト皆之レ震災ニ起因ス即狹少ナル濱田ニ於テ北方
 ハ地盤陷落南部ハ峻起シ從テ川源モ涸ルニ至リ
 シモノナラシ激烈ノ度ハ實ニ想像スルニ余リアリ
 而シテ此災以前ハ甘鯛(里名クヌ)ヲ漁スルト多カリシ
 今ハ僅ニ之レヲ見ルノミ里俗之レヲ殿様ノ出立
 ニ伴ヒテ去リシモノナリトナス然レモ亦全ク海底
 ノ變遷ニ起因セスンハアラス該地震ハ蓋シ海中ノ
 地震ニシテ濱田ノ北海僅カノ沖合ニ於テ其中心點
 ナ有セシモノナラント云ヘリ家屋ハ近時漸々高宏
 ノモノヲ構造スルニ至レリ然レモ維新ノ頃迄ハ屋

上瓦ヲ用井ス猶且二層ノモノハ絶テナカリシモノ
 如シ災後ハ葺クニ瓦ヲ以テシ稍休面ヲ改メシモ
 構造惣テ卑低ナリ一ハ震災ニ懲リテ特ニ低ク造築
 セシモノナラシ(今時小地震ト雖モ周章戶外ニ飛出
 ツ其懲リタルモ亦甚シ)

近時市區改正ノ議連リニ起リタレハ道路灣曲弓ノ
 如ク且家屋ノ方位調ハス犬牙ノ如キ鄙野ノ市街モ
 改良ノ歩武ヲ進メハ大ニ趣ヲ異ニシ商業モ伴テ繁
 榮ノ域ニ進ムヘキヤ必セリ

而シテ山陰道ノ地山陽道ト相反背シ中央ニ嵯峨タ
 ル山脈ヲ負フ頃來道路大ニ開ケ稍便ヲ感スルニ至

リタルモ坂路峻難満足スルニ足ラス然レモ幸ニ北
 ハ日本海ニ面シ一葦帶水ヲ隔テ、露國韓國ト相對
 シ和船ヲ駛テ直航スル時ハ一晝夜ヲ出テスシテ能
 シ達スルヲ得殊ニ濱田ハ沿海ノ中部ニ位シテ良灣
 ヲ控ヘ既ニ數十年來漁船ハ常ニ航海シテ漁獵ニ從
 事スルモ物貨ニ至リテハ遠ク馬關ニ廻航シ稅關ヲ
 經由スルノ迂ヲ取ラサルヘカラサリシヲ以テ明治
 廿五年五月有志者協心大藏大臣ニ歎願スル所アリ
 越テ廿九年三月開港外ニ於テ外國貿易ノタメ船舶
 ノ出入並ニ貨物ノ輸出入ニ關スル規定發布セラレ
 同十月勅令ヲ以テ全國ニ於テ六港ヲ舉テ右開港外

貿易港ヲ指定セラレ濱田モ亦其中ニ加ヘラレタリ
 故ニ帝國臣民所有ノ船舶ニ限リ其出入並ニ貨物ノ
 輸出入ヲ爲シ得ルニ至リ全年十一月神戸税關出張
 所ヲ設ケヨレ大ニ貿易上ノ進運ニ接セリ加之三十
 年ニ至リ歩兵第廿一聯隊ヲ此地ニ屯營セシムルコ
 トナリ即チ地ヲ黒川ニトシ全年十月工ヲ起シ終ニ
 昨三十一年七月廿五日轉隊ノ榮ヲ蒙リ聯隊司令部
 亦松江ニアリシヲ此地ニ移サレ次テ馬嶋ニ燈臺
 ナ置キ且内地雜居ノ實施ニ伴ヒ三十二年七月勅令
 ナ以テ濱田ヲ港界ハ黒崎ヨリ馬嶋ノ西端ニ引キタ
 ル一線ト馬嶋ノ北端(千疊敷)ヨリ「アブミ」崎ニ引キタ

運輸

ル一線以内ト定メラレ即長濱港ヲ併合シテ開港場
 ノ指中ニ數ハラルヽニ至レリ明治三十三年勅令二
 五二號ヲ以テ更ニ黒崎ヨリ馬嶋ノ西端ニ引キタル
 一線ト馬嶋ノ北端(千疊敷)ヨリ入道鼻ニ引キタル一
 線以内トセラル之レ濱田カ今日ノ地位ヲ占ムルニ
 及ヒタル經歷ナリ今ヤ山陰縱貫鐵道(京都ヨリ舞鶴ヲ
 經テ山口ニ達ス)第一期線ニ編入セラレン
 トシ濱田港築港ノ議亦稍熟シタレ八年ヲ重テスシ
 テ益隆盛ニ趣クヤ目ヲ刮シテ見ルヘキナリ

古來道路ハ狹隘ニシテ或ハ峻坂多ク或ハ砂濱等ニシ

テ物品ノ運搬ハ摠テ牛馬ノ力ニヨリシカ明治廿三年道路ヲ改修シ廣嶋線山口線松江線トモ完全ナル道路トナリ隨テ各沿道村爭テ二種道ヲ修築スルニ至リシテ以テ貨車ヲ以テ之ヲ運搬スルヲ得ルニ至レリ故ニ往時ニ比シ自然物貨集散ノ度ヲ高ムルニ及ヘリ而シテ近郷三隅跡市ハ港河ヲ欠キ高津益田郷津ノ物貨ハ舟船ニヨリテ彼地ヨリ輸出セラルモ何レモ其港頭川流ノ北海ニ注入スル口頭ニ當ルヲ以テ荒浪ノ爲メ秋冬ノ交ハ港ヲ閉チラレテ多ク温泉津ハ灣狀好良ノ海港ヲ有スルモ近郷ノ道路能ク彼地ニ物貨ヲ致スヲ得ス故ニ皆或ハ小廻

船ニ或ハ陸路ニ之ヲ濱田ニ輸シ更ニ他方ニ運送セラル故以テ濱田カ物貨ヲ集收スルヲ多キト又濱田カ彼地ニ關係ヲ有スル所以ナリ因ニ記ス三隅大田此等余ヲ有テ那賀郡ノ西部物貨ヲ集散テ主ル一小街ナリ三隅川町後ヲ流レ西湊古市場ノ境ヲ過キテ海ニ入ル水淺ク上流一里余能ク小舟ヲ往來アリテ運輸ヲ資ク然レテ物貨ノ殆ク皆全部ハ陸路(國道五里)之ヲ濱田ニ輸リ東西ニ分送ス主ナル貨物ハ米麥雜穀紙楮皮生蠟蠟實茶種胡麻生魚繭等ナリ

益田 濱田ノ西拾壹里美濃郡ノ中部ニ位シ人口三千五百拾六人ヲ有シ商業最繁盛ニシテ街路整然且清潔ナリ

益田川市街ノ東ヲ流ル然レモ水淺クシテ舟ヲ泛フヘカラス故ニ高津港ヲ利用シテ物貨ヲ集散ス

(高津ハ益田ノ西ニあり相距ル一里弱)

主要輸出物貨ハ生糸繭羽二重織米穀半紙楮生蠟蠟表蕤栗材其他木材箕菅笠笠緒鎌醬油等ナリ

高津 高津川ハ源ヲ山口縣ニ發シ津和野川ヲ合セ匹見川ト擴田ニ會シ高津市街ノ東側ヲ流ル石見第二ノ大河ニシテ日原以下舟楫ノ利アリテ上流

一正

及沿道並ニ匹見川筋ノ貨物皆此ニ集ル下流注海ノ邊能ク大船ヲ碇泊セシムヘシ人口三千六百七十九人アリ商業又盛ナリ川流鮎ヲ産ス沿村ノ收穫年々五千圓ニ下ラスト云
米麥雜穀扱苧生絲繭木材栗材板類等主要ナル物貨ナリ
柿本神社ハ市街ノ南丘鳴山ノ腹部ニ在リ社殿宏壯遠近ヨリ來詣スルモノ常ニ絶ヘス殿側碑アリ
碑文ニ曰

正一位柿本大明神碑銘並序
京榮十刹萬年山真如禪寺沙門題常撰書
正四位下行少納言兼侍從內記在宮學士菅原朝臣爲暎篆額

位柿本大明神人之磨碑銘

柿本公人磨元以倭歌舉世莫不知而史缺其名焉公生于石見不詳自出說者曰戶田之民綾部氏見一孺子于柿之下自稱得靈島之神而毓之是為公及長官于京為大夫嘗慮從吉野雷岳之烈久與諸皇子遊皆以倭歌見蓋當持統天皇之朝也神龜元年甲子三月十八日卒于高角山臨終有歌歎山間之月流為別云國人為立祠廟地置人丸寺常祀其山橫出海上民邑之頗庶萬壽三年丙寅五月海騰山崩峯皆溷沒既而一松汎游波神像存其處因更作祠與寺相承六百有載其地曰松崎及津和野之為藩而皆屬焉尙恐其濱海有災也命遷之南一里而遠仍名高角山存古也享保八年癸卯屬公沒之一千載詔贈正一位使侍從下部兼雄略等改人丸寺為真福寺綾部氏世稱萬世刺肝高恒刺肝者謂託也以公託焉爾至今殆四十世不絕多壽者亦為公之小祠奉之嘗有靈異其謂存焉其柿尙在宅其實織而未黑名筆柿無核樹老則接生然分諸真福之庭有二樹而已接之他即變為常種云自癸卯而幾五十歲為明和九年壬辰於是始立碑勒焉乃謂于余余以為古有柿本氏實孝照天皇之裔豈其族與綾部氏之說不亦異乎蓋空桑之尹梨樹之册於古有之夫倭歌吾所不知其於詩率類也與有遊間纖婉之風無耿介盤礴之度則為詩者子為也其所以憲憂稍存驪娛優柔手著言辭之外者情斯同矣所以精思而入微其妙可以動天人感鬼神者工斯同矣何必從吾所好非其為與撰為哉吾悲公之意其於世無所庸助無所顯終身海島之間而獨以三十一言之藻憲璋百代上下像莫不崇信至乃比空桑之尹梨樹之册謂為非凡此立言者之所以慨古昔沈淪下位餘斯不朽之心斯亦可不謂同乎吾聞其像慘孤與簡豈亦溫柔敦厚之教垂乎祀典者非邪高角之月何為言終彼一時也爰述之其詞曰 有生于桑生于李輸之漚遠惟有柿繁天篤生有寸時抽衲聘好紛內美右手執筆左手指言志永言異軌月出皎兮人與比所存者神無終始

明治九年歲次壬辰八月甲子朔二十六日巳丑 藩主朝散大夫能登守源朝臣矩貞立石

跡市 那賀郡東奧部ニ在リ濱田ト相距ル五里戶數

四百余ヲ有シ一小街ヲ成セリ米穀扱苧紙楮皮等
 ヲ産シ濱田物貨ノ一部ヲ占ム尙且邑智郡東部ノ
 經路ナルヲ以テ商業亦盛ナリ
 鄉津 鄉川ノ下流ニシテ濱田ノ東七里ニ在リ鄉川
 ハ中國第一ノ大河ニシテ源ヲ安藝ニ發シ三次ヲ
 經テ邑智郡ニ入リ那賀郡ニ來リテ海ニ注ク沿岸
 四十余里ノ貨物舟ニヨリテ此地ニ輪サレハヲ以
 テ大ニ繁盛ヲ極ム下流大船ヲ容ルニ足ルモ是
 亦河口航路ヲ遮ラルノ恐ヲシトセス故ニ又濱
 田ニ運搬スルノ止ムヲ得サルニ至ル頃日江津銀
 行創設セラレ商賣益繁昌ニ趣ク集中物産ハ粗陶

器鐵銑板苧楮皮繭生蠟種油櫨實木材竹板類桐下
 駄甲スリッパ松割木白炭槌皮燐寸軸木菅笠藍赤
 瓦生酒醬油鹽魚油粕干鰹石材等ニシテ人口三千
 五百六十七人ナ有セリ大
 温泉津 邇摩郡ノ西隅ニ在リ人口二千二百五十七
 人ナ有シ邇摩安濃郡及那賀邑智ノ一部ノ貨物皆
 此地ニ收容セラル濱田ト相距ル海路東二十海里
 良港灣ヲ爲セリ商業繁盛ニシテ船舶ノ出入頻繁
 ナリ主要輸出物貨ハ干鰹鮫乾鮭鹽鮭乾鱈石瓦粗
 陶器煉瓦下駄材木材等ナリ
 街中温泉アリ浴客四時絶ヘス

鐵泉試驗成績ハ左ノ如ク
 本泉ハ無色透明ニシテ其味鹹ク稍收斂性ナリ反應ハ微ニ酸性ヲ呈シ
 之ヲ煮沸スレハ亞兒加里往トナリ冷却スレハ炭酸瓦斯ヲ放逸シテ
 涸濁ス温度ハ泉源ニ於テ攝氏ノ五十度ヲ示シ比重八十八・六度ノ氣
 温ニ於テ一・〇〇五九ニ居リ固形分ハ一リットル中七・二四八グラム
 ヲ有ス其主成分左ノ如ク

- (成分)一リットル中
- 珪酸 〇・〇九四二五
 - 遊離及半化合炭酸 〇・九三七五
 - 重炭酸亞酸化鐵 〇・〇〇一三八
 - 酸化亞兒密紐母 〇・一〇一八八四
 - 硫酸那篤留母 〇・六二一五
 - 格魯兒那篤留母 四・六四三四
 - 重炭酸加兒叟母 一・七六六四二
 - 重炭酸麻屈涅叟母 〇・三七〇四

燐酸
 痕跡
 硫酸
 痕跡
 格魯兒カウニム
 痕跡
 格魯兒加兒叟母
 痕跡
 格魯兒麻屈涅叟母
 僅微
 以上ノ成蹟ニ依レハ鹽類泉ニテ其効用概テ次ノ如ク
 消化不頁 慢性胃加答兒 食思欠乏 常習便秘 慢性腸加答兒 下腹
 充血 腺病 多血病 肝癰病 慢性氣管支加答兒 子宮腫脹及子宮潰
 瘍 骨系諸病 皮膚病等

歴史と沿革

往昔石見ハ大内氏ノ領セシ所ニシテ戰國ノ當時ハ暗
 澹タル腥風吹キ荒ミ悲惨タル血雨ノ降りシキリシ
 有様ハ想像スルニ餘アリ其毛利氏ニ關係アル著名

ノモノヲ上クレハ毛利家或ハ尼子家陶家ト交戦ノ
 時大内氏ノ將織田家ヲ鏡山ニ援セ又ハ大内氏滅亡
 後其故將益田氏ヲ三角即今ノ三隅ニ攻滅之ヲ降シ
 或ハ吉川元春邑智郡出羽ニ陣セシニ在テハ純然タ
 ル戰場ナリシナリ城址内各所ニ存スルヲ以テ知ル
 ヘシ然レモ事三百余年前ノ事ニ屬シ史料ヲ探ルニ
 難シ元和五年ニ至リ古田氏築城後ハ國人皆太平ニ
 馴レ古昔ノ感ヲ懷クモノナカリシナラシ降テ元治
 元年七月ニ至リ長藩關ヲ犯シ京師ヲ騷擾ス朝廷長
 候父子ノ官爵ヲ褫ヒ幕府廿四藩ヲシテ之ヲ討タシ
 ム濱田藩亦與カル翌慶應元年正月毛利家恭順三國

老以下拾余人ヲ刑シ罪ヲ謝ス於是征長ノ警戒ヲ解ク四月ニ至リ高杉晋作等藩主ヲ擁シテ兵政ヲ釐革シ城地ヲ修ム翌二年幕府再征ノ命ヲ下ス六月ニ至リ山陰山陽ノ兵ト合シテ進軍ス時ニ龜井津和野城主軍監ノ同城ニ在ルモノヲ捕ヘ之ヲ長州ニ送り疑ヲ納ル於是長兵容易ク進ムヲ得終ニ益田ヲ陷シ勢ニ乘シテ當麻雲雀ノ兩陣ヲ拔キ周布川ノ軍ヲ敗リ濱田ニ薄マルニ急ナリ時ニ濱田城主松平武聰病ヲ得兵ヲ親ル能ハス火ヲ城ニ放ナテ海路難ク出雲ニ避ケ士卒皆作州ニ遁ル慶應三年正月ニ大坂ヲ圍ミ孝明天皇御諒闇天下盡ク兵事ヲ禁セラル平定ニ歸

ス明治二年六月諸侯藩籍ヲ奉還シ王政古ニ復ル於茲松平武聰ハ美作鶴田藩事ニ任セラル而シテ濱田ハ隱岐縣ノ管轄ニ屬セラレタリ八月大森縣ニ屬セリ三年正月ニ至リ新ニ濱田縣ヲ置キ大森ヲ支廳トス佐藤信寬之ニ令タリ前原一誠等浮浪ノ徒來リテ村民ヲ煽動シ一揆ヲ起シタルハ此時ニアリ明治九年四月嶋根縣ニ合シ濱田ヲ支廳トス後幾クモナクシテ支廳ヲ廢セラレ爾來嶋根縣ノ管轄ニ屬ス之レ濱田ニ於ケル概要ノ沿革ナリ然レモ享保寶永年中二回ノ大火アリ明治五年ニ震災アリテ災厄中ニ辛クシテ終ニ今日ノ濱田アルヲ致セルナリ

濱田港史終



里程表

濱田ヨリ松江街道	(三六、二五)		
濱田 六、二六	郷津	六、〇四	大家 三、二〇
大田 一、二九	波根東	二、〇五	田儀 五、二四
安達 四、二三	松江		今市 三、二八
濱田ヨリ廣嶋街道	(三一、〇三)		
濱田 六、〇九	石見 今市	五、二四	市木 三、〇五
可部 四、一六	廣島		安藝 大朝 一、一九
濱田ヨリ長門街道	(三九、二二)		
濱田 五、二二	長門 三隅	五、〇六	益田 一、三三
飯浦 二、〇三	長門 江崎	二、三二	萩
濱田ヨリ山口街道	(三三、〇七)		
濱田 五、二二	三隅	五、〇六	益田 四、〇七
津和野 三、〇七	周防 徳佐	九、二五	山口
			青原 五、二二

濱田ヨリ縣下各驛へ距離

三隅	五、三二	益田	一〇、一八	高津	二二、一〇
津和野	二〇、一一	石見	六、〇九	市木	一一、三三
郷津	六、二六	鹽津	一一、一五	大家	一一、三〇
大森	一六、一四	大田	一九、〇八	國儀	二二、〇六
今市	一八、二〇	梓菜	二八、〇九	平田	三二、二〇
宋重	三三、一二	庄原	三〇、三五	松江	三六、二五
廣瀬	四一、三〇	安來	四二、一一	美保關	四五、一九
大東	三九、二八	木次	三七、一一	三刀屋	三五、三一
赤名	三三、三三	川本	一三、三三	跡市	五、〇四
市山	七、二六				



附錄

濱田藩士生田精一（丙寅事）
 情ヲ詳述セリ附録トシテ參考ニ供ス

涕淚餘滴

丙寅年之春公於平生母山野邊氏有昭之訓室川幸於江都永城之第計至公痛哭欲絕者數矣乃令精代拜其靈位精即夜戒與馬以三月八日上程至備州見西討官兵絡繹於路傍視高而步浮蓋知不遇其用也航海至伏見陸行東海遠從者數八圓興行乎花明柳暗驚鴻飛之間至江都設法會於香火院谷中寺稱穿袴佩雅刀拜類靈位蓋公所手授之香威儀肅然孝思愜然事畢以五月十二日就歸途花已落鶯已老新綠因路翠陰鬱々過京師至大坂猶覺祥雲瑞烟磅礴於天半也航海至備州始聞公罹病殆不辨人事而西討事起機事頻繁驚愕憂悶吐哺投箸急戒驛馬日夜兼行六月十六日歸濱田諸藩官兵填咽充塞旌旗之影金鼓之聲相連于四境而公罹病既六旬余不復知軍國之政矣精入見具報以拜其禮畢窺事成公面則潤而言語無力追考之悲見于眉間夫人日夜看誰不離左右膏沐自服代公慰勞吞淚強笑稱奉慰祀以四方烟花之狀十七日有益田苦戰志士戰歿濱田藩士山本知新以一隊屯益田敵斬之與部下短兵靡敵之報滿城悲痛人心洵々精大聲戒侍臣曰公病日篤而國患日迫所謂內憂外患並臻之秋所醫聞而死無逃歸者貴乎士者以其不失常也事者不可為則負公入干城環坐伏刃而猶相從於黃泉不亦樂乎人情稍定精謂總令事乃不可為判刃於君腹固臣子之所不忍為也弱負而逃于因州託公於因侯而伏刃謝罪盡吾職分耳既而敵兵漸迫城中夜警自是日夜侍燕寢內戒侍臣外防細索不復乞洗沐之暇廿四日夜出步庭中有一道光怪自西飛來天地明明可辨魚鱗精愛其妖異露坐遠晨公又發宿病而脚腫痿行步不便廢食俱廢精憂悶頻頻招良醫或有戎事方既不遑及焉沮之者稍慷慨責之曰戎政亦國之大事固不忽之雖然勝敗兵家之常有生則有死不足深怪也公若有不諱之事則滿城之士氣為之沮喪無復一人為出力者矣精遂決即馳使請醫於因侯々大驚令醫與木下來診病木下趨藥奉灸未數日病勢大衰木下慮燕寢卑濕而熱氣薰蒸乃移燕寢於郭中之離宮堂宇高爽清風來往以故腫痿漸減飲食漸復七月十三日有內田砲戰之事離宮僅一里砲聲震動烟氣飛騰公欲躍起不能起倚枕問侍臣曰是何聲也侍臣不能啟告官兵瓦解敵兵盛迫之狀公召精曰雖離宮可樂乎而事已至此軍歸城中而死矣汝勿遲疑精奉諾十五

日侍臣悉環甲携槍侍與側前驅士皆持手統此日炎熱如燬而覺知霜雪之砭骨也精戎衣負公入後宮夫人宮嬪拜迎俯伏無敢出一言者牀席只見淚痕之離々而已十七日官兵悉退孤城無援外援於是二藩守城効死之計始決矣政府相讓欲使夫人世子避於隣國夫人曰世子生僅二歲避於他邦而計再興於他日亦無害也女子從夫固常道耳公而不去則妾亦寧爲城中之灰矣宮嬪交德怨而不肯也精至是窮語侍臣以負公逃難之計衆大喜爭請相從精叱曰衆相從則謀洩矣謀洩則士氣爲之沮喪而守城之議或至廢焉子等宜體此意慎勿傳外間當滿城効死之時可逃則逃而相從公於流寓之間亦侍臣之分耳衆乃服奉當直侍臣竹腰吉田小出三人爲從行小出曰奉君於艱難之間非練熟世味者爲之周旋則或誤事矣行人三宅頗諳世味而有才節是可用也精大喜乃使小出傳密命三宅嚴齋自變密樣爲奴應一意與出城之計謀有司買舟二隻傳云夫人世子遊難於海中繫一隻於蘇洲而備公出焉曾有老臣謀出城之舉者召精論其意精亦告密舉老臣密報其計於夫人夫人乃肯焉日暮與世子逃於海中宮嬪相從者僅數人餘悉歸家官中蕭然疎疎燈明滅無復人聲侍臣分取公手統配硝藥彈丸專爲防戰之計而精乃與從臣四人脫戎衣者短衣爲漁夫篙師之態或隨歸一訣家人精不許曰幾微之見官面猶害事矣况告訣家人乎事乃罷精以爲公一出城則群臣無復仰顏之期公病雖重手召長臣慰戰勞暗寓訣別之意亦禮之當然耳乃入臥內公方眠微聞鼻息欲舉事而止者三矣張而敵鼓鼓則過夜半恐時後事誤又入撫枕公眠覺謂精曰外間屢擾敵既郭中乎汝斬予首投之海中精對曰未也外間之驕詘且將引敵於城下擊之彈丸犯我亦不可知也公在病榻將士皆願後則戰鋒自鈍暫出近郊事定而後歸是將士之願也雖然有生必有死且勝敗亦未可豫測焉願召群臣各賜慰勉之詞夫人世子亦既出城至事不可爲則精善處之決不使公陷非我且泣且誓公憮然曰予精神昏耗而不能復辨是非今日之事汝善處之精即馳人召長臣賜酒膝前備以佩刀各一魚艇各一公命精代傳慰詞精感君臣訣別之情歎歎不能言僅傳其一二而已衆亦揮淚而退精促侍臣負公出南園則月傾西山野聲報晨先遣一人開後門暫安公石上者潛蹤深曉涼侵人曉時時風舞之地忽變斷腸傷心之觀衆相顧無復出言者開門出羣洲移公於舟解纜離岸侍臣不從行者俯伏拜送遙聞啼哭之聲舟出洋中天吹雨來風波險惡三宅立眩頭屬篙夫達唐鍾浦則夫人世子所乘之舟先在焉三宅上

岸情篙夫數十人頻櫓楫而風益起波益高進寸退尺從臣皆惱風濤掩蓬而臥精獨侍坐間懷寒感疾痛公屢擡頭顧精曰汝未殺予乎汝勿爾姑息之愛而遺大辱焉精依違慰之日已午纜達和木浦篙夫疲不能進棹三宅曰蒸氣船遙自西來得非敵人來追乎精謂從臣曰敵若追來則精負公投海底耳諸君各入彼舟斬敵入而來投焉公齡二十有五而仁民愛物稍衣食而修武備嗟天何有所暴怒而罹此奇疾遭此禍也衆相顧掩淚既而蒸氣船相近不半里望其標幟似非敵舟三宅情小舟截浪而行歸報曰天不棄我公矣鄰邦雲州之舟載殘兵歸自濱田者而其船將小田某則相識於戰場之人也告實乞哀小田諾之將來救之衆喜極而哭於是夫人世子之舟亦至與公移於蒸氣船夫人與宮嬪皆去首飾服粗布慙風濤無復人色世子孩笑於懷中不知大厄之爲何物舟中將士傍觀者無不酸鼻既而蒸氣沸騰舟奔洋中不復知有風濤之險行數里西望則一遺黑烟衝天蓋濱田城失守器火以自燒也至是懷家之情不能已窃謂母齡近六十兒僅三歲妻亦羸質豈其死於烟焰之間而無救之者歟抑資奴僕力以逃難歟又自慰謂公與夫人世子雖脫厄於一旦而亦未能保前路安也如衆人之生死則置之度外可也日哺船達杵築港出雲小田即命漁人備與避路奉公夫人世子入市長家供浴進餐命銃士警衛四方從臣至是始就寢實七月十八日也是時引軍屯於平田相距四里即夜遣重臣問起居侍醫進藥十九日天明精謂衆曰雲候雖有隣交之情同姓之親然不如因侯有骨肉之親友愛尤厚而可寄託之爲愈也精將往趨之衆僉曰善精入見告故公戚然曰汝若棄予則予不欲復立世精對曰臣不棄公故至此公何知臣之淺也公悅精即乘輕輜而發行數里天大雨輜無尾底滿身沾濕嗣後無復一人從者回思前日東行之事恍如隔世二十日哺時至因州就城衣即夜因侯使侍臣來勞焉木下亦脫離歸來告濱田失守燒城郭屯殘兵於近郊乞援於隣國事廿一日見候於茶室泣請曰寡君雖似略知大義若使其精神光明如平日則雖孤城無援衆寡不敵而豈肯爲退寸步離墳墓之舉乎試外臣非不知之而加刃於病羸之君實臣子所不忍爲故忍耻任節始移之隣國官若責其罪則外臣雖瀾頭血於階下以解其冤至寡君及婦人世子之身則願賜餘庇以存一條之血胤焉他日寡君病愈則必有自處之道矣非所敢請謹布腹心候汝然流涕曰汝君設心慈詳修身謹嚴謹試惠民之道無所不至焉宜享厚福於百年而斯時而有斯疾也斯人而有斯禍也天之愛憎真不測矣官兵皆走孤城無援退而謀再舉

固常道耳移病君於他洲以存不忍之愛亦忠臣之至情也官豈有責其罪之理哉寡人於汝君友愛最厚連牀看病固寡人之願也雖然留殘兵於敵郊而移居千數十里外之幣邑恐負汝君平日之志矣至夫人與世子則移之弊邑盡國力以周旋而候天定之日矣汝勿顧慮隨以傳之將士勿誤後日之大義精拜類揮淚而退二十二日賜宴於旗亭二十三日發因開夜半到松江館更迎語曰寡君愛汝田侯流千僻邑將迎之城下山莊以慰其病憫獨至在明日矣請相留以款其館事精即夜入山莊問廣快計要害酒播饋一出于獨斷二十四日哺時公夫人世子之駕至矣精乃告以因侯之有公有悅色先是三宅小田以事往京師侍臣相從者僅數人以故或臥或起奉日夜看履之務殘兵後至者日夕不絕屯營于四傍以備警衛數日而侍臣皆至稍復舊儀重臣會議姑定牙營于此地以候敵形勢且為再舉之計館臨大江風景絕佳自城樓而街之明媚買鮑漁舟之來往至啼鷓鴣魚翠竹白砂之觀雨來風生霧開烟鎖之態歷然千一瞬之間雲候日遠使臣贈美旗而公顏色不樂向座隅嘆息而已侍臣或問故公不對數日而幾食俱廢形容憔悴精承問請問曰公之所以不樂者雖病憫之所令然而外則有山水之娛心目內則有夫人之侍巾櫛世子之供饋笑而雲侯之厚情盛意自飲食衣服至執事皆無不供給而群臣相從警衛四方公何苦為此戚々乎公儼然改容曰汝何不曉事甚也雖小藩猶在諸侯之列身羅奇疾不能盡力于王事離憤慕棄民人流寓于他國罪戾深重自分刑戮而雲侯存舊誼贈賄過分予何顏以當此盛意乎且群臣皆離父母棄妻孥從予予雖無似不忍受妻孥之奉也即以薄德久踴爵祿神怒人怨遭此大難也固宜矣而予一人之禍延為千百人之厄究不亦哀乎嗟予若不獲于先君奉社稷則一藩或無此災害矣予思之將將千斷矣宰斷食而死欲見先君於地下謝其罪幸有一塊肉汝等輔之勿使類我藩德若夫山水眺望則予不追願也精對曰前日之事罪在群臣而分自任其咎天意豈不垂眷顧乎願慎攝養以俟事定公意稍解八月朔木下來任丹桂之黃蓋因候之意也而公寢食稍復十日因候令人來迎夫人世子與馬駒從皆出干盛意是日家人到近郊精即往見焉見迎干路妻迎干門母迎于庭或笑或泣如遇死別之人母曰七月十八日兵變將及家以子生死不可知不肯遠逃姑出舍于近郊十九日聞子奉公逃難乃決意東奔天雨足痛徹舟淫海稚子惱風濤氣息將絕又出就路或憐盜賊之侵奪或遇市童之窘辱石徑傷足草露濕衣被髮倚杖僅入雲州始聞移老幼婦女于作州封地

之令今若不見子則他日無復相見之期矣妻在側低頭泣耳精見其狀皆形瘠而面驚稚子嬌舌猶說舟中之苦惱精慰諭百方乃買輕船情與丁促令就路既而聞滿城老幼或死于路或拘于盜之狀窮民一家猶有嗣也十五日公病稍愈乃會群臣于前園慰勞賜酒或至仰其顏有重淚者尋幕府勞一番苦戰勇剛憐其厄究賜金並穀士氣大振既而三宅小田有致仕之事精訪小田于出雲鄉驛悲感慷慨三日而歸十月三日至因州謁夫人世子詳報公病愈之狀夫人大喜載書贈物精迂路到作州防家人僑居而歸尋有一番決死恢復之計公聞之大喜屈指待其成而幕府枝梧不許十二月公形容復常使木下歸休精奉命送至因州又謁夫人世子世子稍習步周旋可愛回思去年今月國辰之盛禮不覺急淚之催也客舍迎風丁卯正月歸松江會有天子詔閣四海解兵之詔公耻恢復之計不成徒受雲侯之饋屢憂悶累日病勢又將熾群臣會議請之幕府遂移館于作州封地公文中村邑長家實三月廿六日也群臣皆僑居於白雲流水老櫻稚柳之間距館各數里以短杖纏鞋相往來不復聞皮履之音矣公日從侍臣數人臨山渡水折花釣魚問桑麻說杭稻徜徉吟哦以養其精神病勢大減五月廿三日精轉職入政府六月九日夫人世子至自因州以居館狹隘別築新室于前園茅茨不剪柱楠不刻公扁之曰三尚樓蓋取衛公子荆之語也精以職事繁劇僑居隔遠不復能屢入見如前日也十一月以事入京即風烟如故而情思不好事稍閑乃回思立年東行以來之國難肥身所關係之顛末如此嗚呼公病未愈國事未定而天下形勢如乘敗舟浮洋中則精之生死亦未不知存何處也慶應丁卯十二月上澣憲法阿筆繞書過鹿散人生田精



11/36

美小間物卸

神佛具
漆器類
金銀箱
建築用具
うるし
漆入道具

和洋 諸金物商

石州濱田美和町

商號 古金屋

古森吉郎治老舖

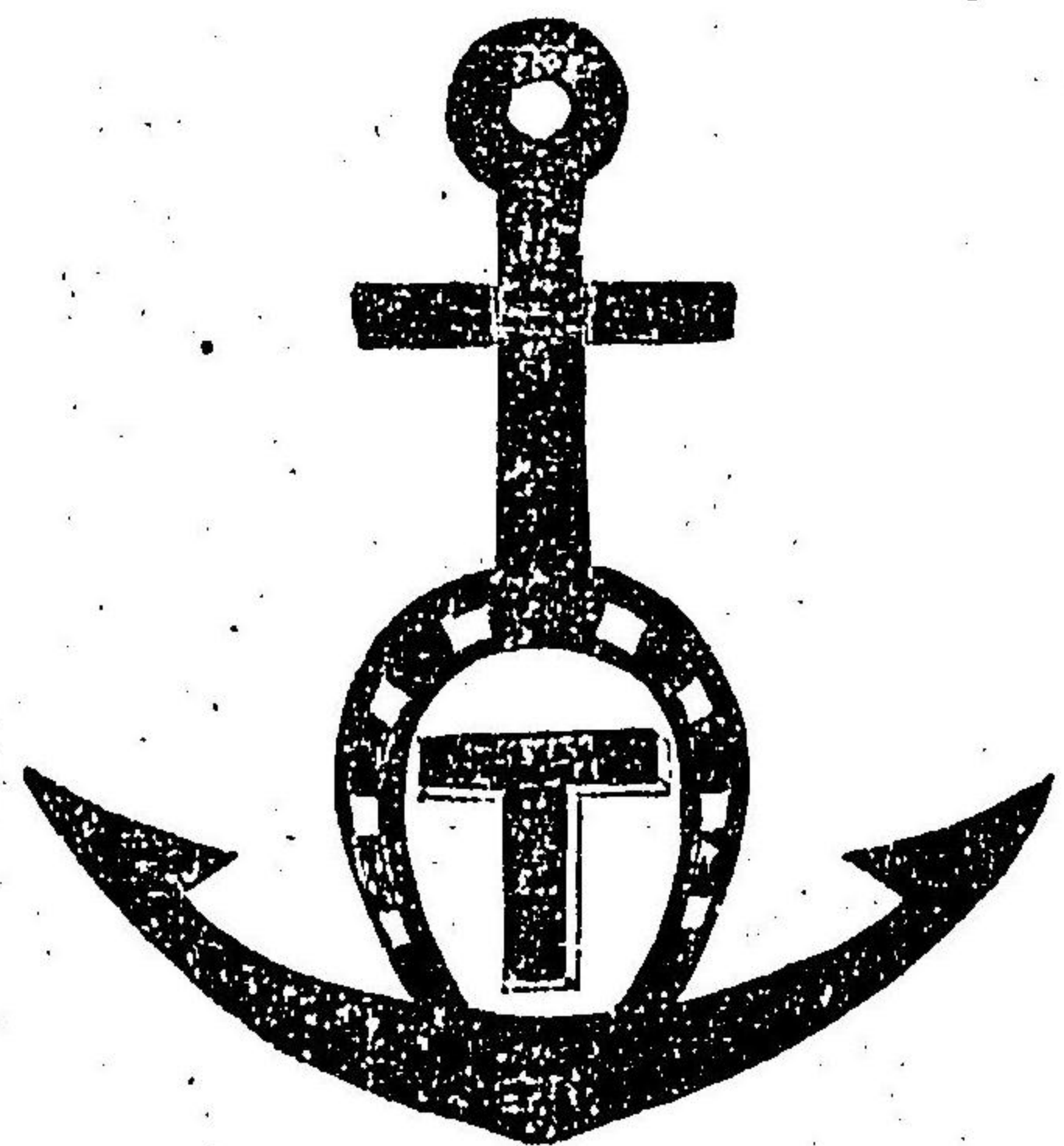
電信略號(ハヤタコモリ)



清酒老松

商

標



登

録

濱田蛭子町

俵元右衛門

和久屋

和洋

合

諸

宝

物

商

漆神
器佛
類具

金銀箱
建築用具

うるし
漆入道具

美小間物御

石州濱田美和町

商號古金屋

古森吉

郎

治老

舖

電信略號(ハマタユモリ)

大

志

正札附

吳服大物

舶来織物

和洋雜貨

卸小賣

石見長濱港

大竹田傳七

商號大黒屋

也

人

倉敷紡績會社製糸特

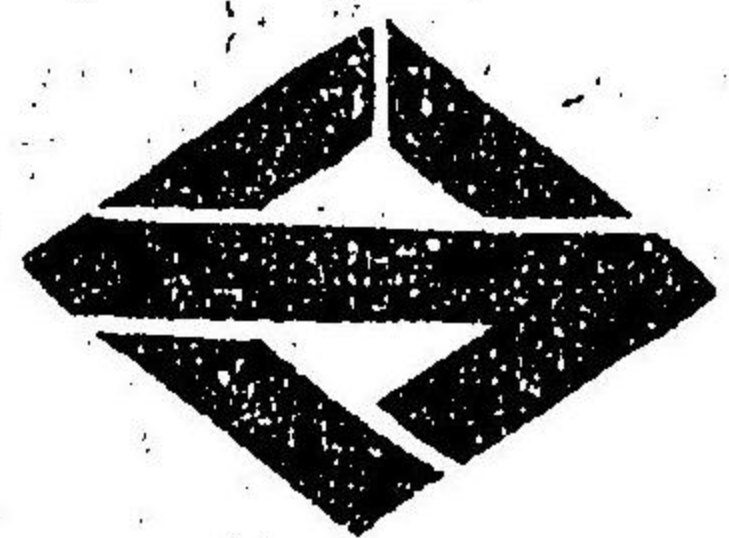
名古屋新榮社マツ子約

廣島油明會社マツ子卸

英國マツ子會社マツ子系所

株式會社濱田銀行公告

● 諸預リ金ハ精々御便利ニ御取扱可申候
 ● 貸附手形割引荷爲替代金取立其他銀行
 一般ノ業務ハ御便利專一ニ相働可申候
 ● 各地へノ御送金ハ金額ノ多少ヲ問ハス
 一切無手数料
 總テ敏活誠實ヲ旨トシ勉強可仕候間精々御取引被下
 度候



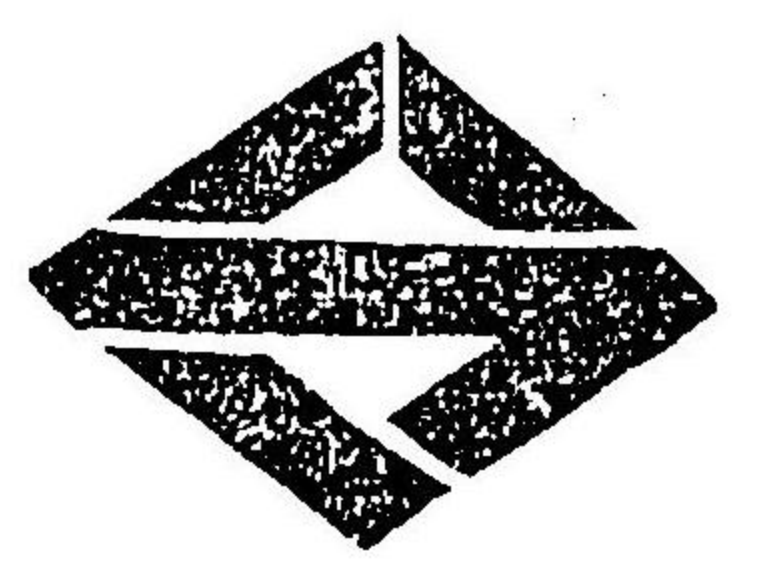
株式會社濱田銀行

法務省
 登記
 第...号
 商標
 第...号

東京
 本行
 支店
 大阪
 京都
 神戸
 名古屋
 福岡
 仙台
 札幌

株式會社濱田銀行公告

- 諸預リ金ハ精々御便利ニ御取扱可申候
 - 貸附手形割引荷爲替代金取立其他銀行
 - 一般ノ業務ハ御便利專一ニ相働可申候
 - 各地へノ御送金ハ金額ノ多少ヲ問ハス
 - 一切無手数料
- 總テ敏活誠實ヲ旨トシ勉強可仕候間精々御取引被下
度候



株式會社濱田銀行

東京品
船來品

萬小間物卸小賣商



濱田新町
松原屋
松坂定吉

法務報

弊館義今回更ニ客殿ヲ増築シ
一層從來ノ營業ヲ擴張シ至極
可寧ニ御取扱可申上候間陸續
御來館アラントナテ希望致候

藤田屋事
齋藤フシ

乾物砂糖石油商

廉價販賣 小賣元商



新田町

宇野屋商店



瀧田衛成病院御試験済
ラム子製造

明治廿八年創業
瀧田屋
濟養舍

吳服太物商

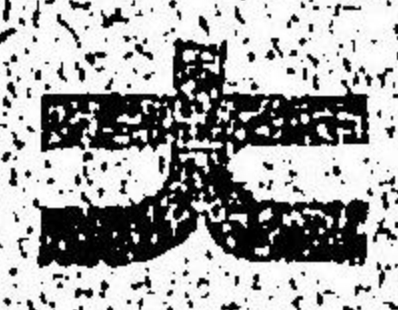
並賣 表類
小間物荒物
廉價販賣

川木下竹治

瀧田町

石見國 瀧田港 石見物産取扱株式会社

電信略號(テツカキ)



大坂商船株式會社荷客取扱

船積荷乗客精々御便利ト親切ヲ旨トシ取扱候
什多少一不均御出貨御乗船アランノヲ希望仕候



日本海陸保險株式會社代理店

汽船帆走船積貨物保險取組仕候一付御申込被下度
保險規則保險割合表等御申越次第郵送可仕候

荷爲替貸及商品引當貸

精々御便利ヲ謀リ種々瓜步ナル手数料ニテ取組仕候間御用被仰付度候

石油販賣

當會社ハ本國産(シナ)石油會社製造松印石油專賣ノ特約ニ付價ノ
低廉下品質ノ精確ヲ保證仕候間多少共御注文願上候

資本金



拾五萬圓

石見國那波郡濱田町
株式會社 濱田商業銀行本店
全國全郡三隅村千八百十三番地

同國美濃郡益田町 二百三十一番地
二百三十二番地

三隅支店 益田支店

(●◎號器信電)

一各預金

定期別段通知當座特別當座
共精々相助可申候特別當座
座ハ五圓以上取扱申候

頭取 西坂彦太郎
取締役 俵三九郎

一貯蓄預金

壹錢以上何時ニテモ貯蓄上
御便利ニ相預申候

全 卷金次郎

一各地送金

各地へ御送金及荷爲替ハ可
成丈低歩ニテ御取組可仕候
送金ハ時機ニヨリ無手数料
ニテ取扱申候

全 山藤佐一郎
全 藤田直太郎

一諸貸付金

專ラ商品外ハ有價證券等擔
保付テ貸付不取産ナレハ當
座貸越ヲ御取組致シ最低利
ニ相切可申候

全 俵田嘉久次
全 右田古憐

一手形割引

確實ナラ裏書ナレハ無擔保
ニテ御取組申候

全 大達新吉
全 江本善四郎

吳服太物 洋及物

卸小賣商

獨逸トンビ

各種

並ニ吾妻コート

販賣

被布類



濱田紺屋町

商號 佐野屋

佐野長兵衛

兵服太物 洋反物

卸小 賣商

獨逸トンビ

各種

並ニ吾妻コート

販賣

被布類



濱田紺屋町

商號 佐野屋

佐野長兵衛

資本金



拾五萬圓

石川縣濱田町
濱田商業銀行本店

支店

支店

支店

支店

支店

支店

支店

支店

一各預金

一時預金

一各地送金

一諸會付金

一手形割引

米酢製造販賣

並油蠟燭製造販賣

濱田原町

桐田治右衛門

商標 全

銘酒



各國煙草卸小賣

瓶詰樽賣共

薄利販賣

正

濱田新町

矢達早太郎

萬
小間物類
打揚煙火
商
今

濱田新町

矢達為吉

藤原菓子屋

一五煉羊羹 一煉夜の梅一名濱田八景 一滋松露
 其他蒸干菓子御好ニ應シ調進可仕候
 濱田大橋東詰錦町通




堂

吳座類卸元販賣

- 疊表類 種々
- 花吳座 色々
- ウラ敷用 應御好
- 七島蓮 各種

並染地反物麻紙布及荒物商

石見國濱田港牛市町

商標  梁田順三郎商店

美術寫真

應貴需

(出來期日一週間内)

梁田商店寫真部

朝日館

南生糸仲買為

洋釘

板硝子 卸小賣

並ニ建具類一式屏風衣桁類
 座敷廻り唐木類販賣

濱田港新町

商號石津商店

合石津藤吾

御菓子處

砂糖諸掛物

びすけつと

かすていら

其他生干りし

濱田新町

都野榮次郎

髪かざり

化粧品

袋もの

販賣

濱田町三重橋東詰

三寺本雜貨店

藥種商

並ニ醫用器械工用化學藥品

繪具製劑卸賣

濱田新町

古川林平

各清枝又厚員為

濱田港新町
本通り

商號 山田屋
山田常吉商店

學校御用雜貨各種
軍隊御用兵式雜具壹式
書畫用毛筆
商業用諸帳簿

製造所

卸小賣大販賣

用茶 陸産菓子處

一長崎カステラ
一煉羊羹
一ビスケット
一青餅

右ノ外菓子蒸菓子ハ申スニ及ハス佛事婚禮祝儀宴會等ノ引出菓子各其式ニ應
シ精々廉價優美ヲ旨トシ御注文ノ多少ナ間ハス調進仕候間陸續御用被仰付度願
上候

松屋事

濱田新町
長榮

堂

陸産菓子



青錦水箱

海産物

米穀肥料

商

食漬問為次

御旅館

清水壽一

菓子製造所

開花堂

各清越及屋貞多

濱田港新町
本通り

商號 山田屋
山田常吉商店

學校御用 雜貨各種
軍隊御用 兵式雜具壹式



商標
書畫用毛筆
商業用諸帳簿

製造所

卸小賣大販賣

日本菓子屋

一長崎カステール
一煉羊羹
一ビスケット
一青餅

右ノ外菓子蒸菓子ハ申スニ及ハス佛事婚禮祝儀宴會等ノ引出菓子各其式ニ應
シ精々廉價優美ヲ旨トシ御注文ノ多少ヲ問ハス調進仕候間陸續御用被仰付度願
上候

松屋事 濱田新町 榮堂

法務館



濱田錦町 錦水館

海産物
米穀肥料

濱田折戸町

余濱岡爲次

御旅館

濱田京町

清水壽一

風流茶用
菓子製造所

清水支店濱田原町

開花堂

濱田

藥濱石俵

各國藥種

藥用阿片指定賣捌店
 醫療及理化學器械
 工業化學品繪具染料
 洋酒類及各種滋養食料品
 各種賣藥特約代理店
 帝國生命保險會社代理店

館廣告

蛭子町



風ばらい
 熱ちまじ
 キビリン散

能効治主
 ○流行性感冒 ○天然痘
 ○腎臟炎 ○腸室扶斯 ○
 ○實布の里亞 ○麻疹 ○發
 ○疹室扶斯 ○健腐質斯
 ○其他諸般ノ熱病ニ特效
 アリ

價定
 一日分三服入 金五錢
 二日半分 金拾錢
 七日分 金廿五錢
 廿一服入

結晶
 沃度加里

能効治主
 微毒性諸病後麻室斯
 腺病神經痛肋膜炎

價定
 三日用 金拾錢
 七日用 金二拾錢

製劑本舖 俵新十郎

廣 告

西 洋 大 造 製
棚 販 賣

- 一見世戸棚
- 一三方硝子戸棚
- 一蠅入り
- 一水屋戸棚
- 一膳戸棚
- 一茶戸棚
- 一かさね箆筒
- 一四方硝子戸棚
- 一前硝子戸棚
- 一呉服戸棚
- 一茶棚
- 一帳筒
- 一櫛筒
- 一建具類

濱田片庭
精巧舎
岡本善市

神 車 到 本 年 五

印章 辨 別
時 計 販 賣

竹中虎夫



濱田港手市町

和 洋 雜 貨

銃 砲 火 藥 類



並ニ硝子器 ラン プ 類 板 硝子 各種

濱田 聯隊 區 司 令 部

濱田 憲兵 分 隊 本 部 御 用 達

馬 島 燈 臺

濱田 新 町

商號 尾田 商店

今 尾 田 甚 平

廣 興 洋 行
大 造 製

神 戶 製 鐵 廠
大 造 製

和 洋 雜 貨

銃 砲 火 藥 類

販 賣

並ニ硝子器ランプ類板硝子各種

濱田聯隊區司令部

濱田憲兵分隊本部御用達

馬島燈臺

濱田新町

商號尾田商店

今 尾 田 甚 平

醬油釀造販賣 山崎寬治

濱田原井

濱田新町土手通

醬油並ニ酢販賣 淺原商店

並ニ卷刻莩

民刑商事ノ代理鑑定辯護其他

法律事務一切ノ高ニ應ス

辯護士 富島豐太郎

(事務所)石見國濱田町大字原井

味務録

濱田新町大橋角

山下善吉

商號大和屋

海産物問屋

令

濱田辻町
商號

佐藤屋

あらいはりじみぬき

濱田片庭

萬染物所

佐々木八二郎

上繪西洋せんたく

濱田新町

下

味務録

佐藤屋

濱田新町大橋角

山下善吉

商號大和屋

海産物問屋

令

濱田辻町
商號

佐藤屋

あらははりしみぬき

濱田片庭

萬染物所

佐々木八二郎

上繪西洋せんたく

和洋

煙草卸商

濱田新町

工

江村源吉

藥種商

並ニ醫用器械繪具染料
職工用藥品諸賣藥販賣

濱田朝日町一丁目

川 河村市三

書籍商

濱田榮町

安達共榮堂

廣告

- 一紙類 卷紙狀袋
- 一疊表類 附屬品共
- 一紙布麻布

右廉價販賣仕候間多少ニ限ラス御用
向被仰付度願上候也

石見濱田新町

商號吉田屋



川上清太

廣告

優等 紙卷煙草 製造 販賣

口付兩切種々

右ハ原料精撰製造注意

江湖諸君ノ御嗜好ニ應ス

幸ニ御愛購之程奉願上候

石見國濱田町



製造元 壽

舍



元造 釀

芝中宇村見石
市寅津字

廣告

天津中街

廣生堂

總發行所

天津中街

廣告

天津中街

廣生堂

總發行所

天津中街



天津中街



釀造元

石見村字中芝市
字津寅市

諸掛物菓子各種製造

米利堅粉取次販賣

右販賣仕候間多少共

御注文被下度願上候

濱田原町

商號常盤屋

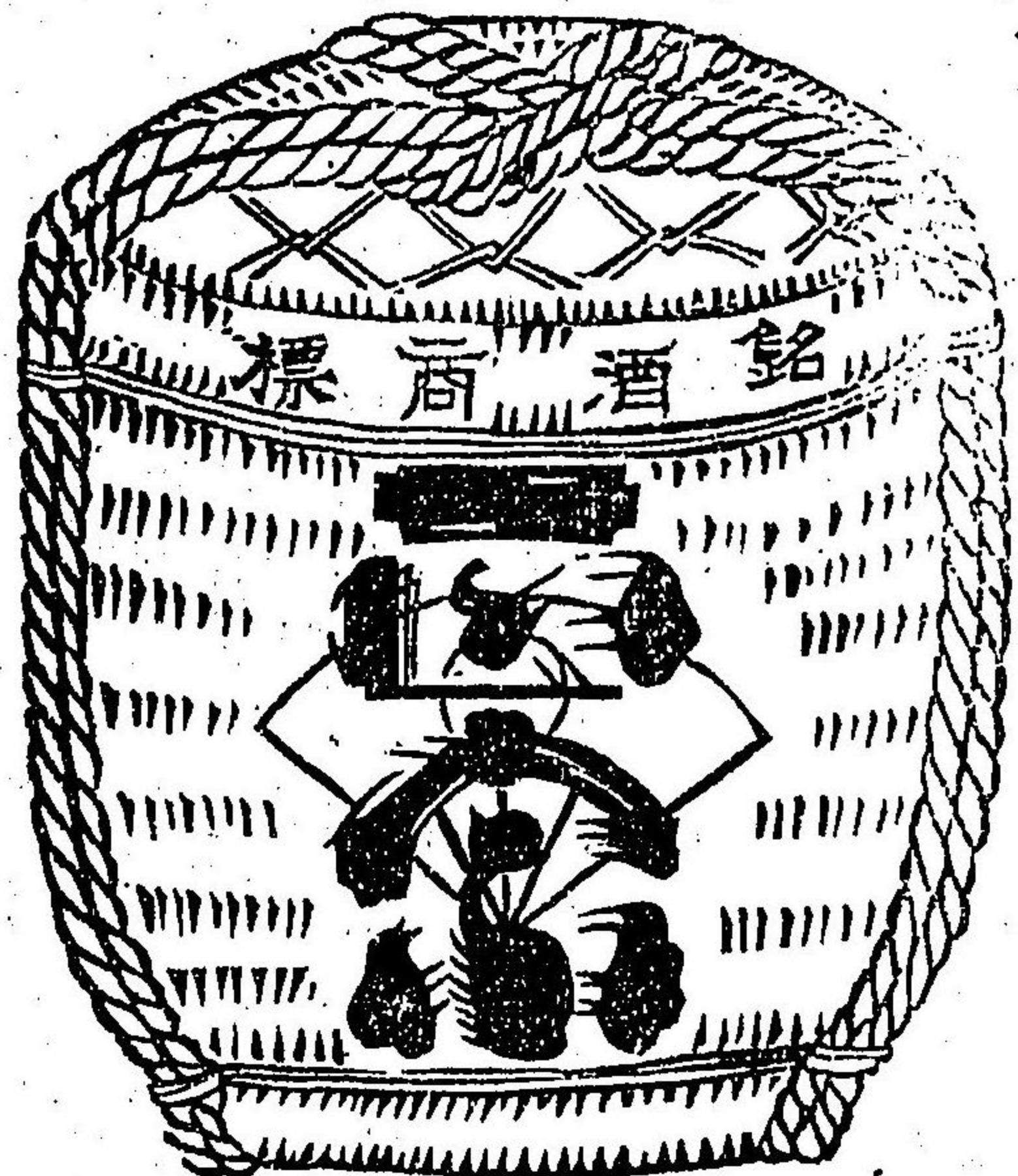


角出商店

電信寄語(カクノマ)

銘

酒



石見濱田紺屋町

醸造元 山崎 榮

書目籍商

濱田新町

三

浦梅太郎



濱田新町 玉露野平
館三郎

廣告



濱田新町九十九番地
御用御印彫刻師 山形南岳
電話號碼(ヤナ)

各附屬品種々
國時計商

並ニ修覆

濱田新町

木下岩吉

和洋御料理

弊店儀從來日本料理ノミ仕出罷在
候處今回西洋料理ヲモ併セテ調達
仕候間倍舊御用向ノ程願上候

濱田新町本通

宇川屋一 宇川鹿次郎

改良
白濁醸造
坂本

並ニ太物小間物商

念
醸造元 清水七藏

石見國濱田港牛市町



古金銀買入

濱田朝日町

新古 時計商
細上三代吉

小間物手遊類

清酒玉笹

那賀郡濱田町

釀造元 大場酒造店

萬間屋

内外諸物品委託販賣

濱田町川口

市木金次郎

電信略名(一キ)

御菓子砂糖商

並ニ掛物類一切卸處

濱田港牛市町

岩田屋田村宇作

米穀商

生蠟紙楮

海產物

仲買

濱田京町

商號島田商店

志

島田次太郎

諸國御宿

濱田港牛市町

有田初次 有福屋

書目録

濱田牛市

圭山房

古

井

廣

吉



農業

生産製造

種物
荒物
材木
皮物



石井重三郎

今

三

角

屋

書箱商

濱田牛市

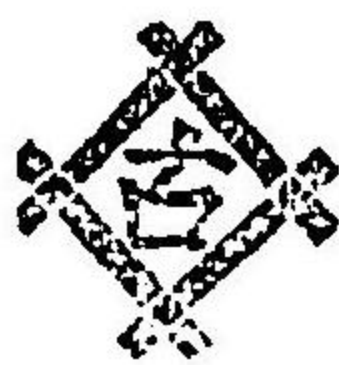
圭山房

古

井

廣

吉



質屋藥種

濱田港辻町

福嶋屋事

木村小次郎



●全國有名諸賣藥 ●西洋酒 ●繪具染料 ●古物古着類

諸油生蠟
蠟燭發附
製造

並ニランプ類販賣

濱田朝日町二丁目

商號油屋

種物荒物商
反物材木

濱田牛市

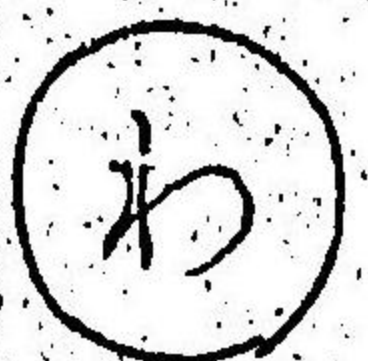
今三角屋



石井重三郎

青物 荒物
乾物 種物

販賣



綿屋

濱田 牛市町

松岡 熊太郎

過磷酸肥料

拾貫目 八入金壹圓七拾錢

總て作物は多くの磷酸を吸収せざれば充分の收穫が得らぬのみが品質粗悪なるにも拘はらず我國の土壤至る所磷酸質乏しき一搗て加へて從來農家の慣用せらるる、鹹、銻、鉍、鉛、大豆、大豆粕、人糞、厩肥、堆肥等はいづれも窒素質肥料にして甚だ磷酸乏しく爲めに莖葉濃緑色となり出来換得宜しきや或は虫害も罹り或は倒れ伏し多量の收穫を得ざるは比々皆然り過磷酸肥料は即ち在來肥料中の磷酸の不足を補ふに最も適當なる良肥料として作物の最も吸収し易き可溶性の磷酸を富めるを以て從來の肥料と混用して試みても最早疑ひなきことあり

此過磷酸肥料を苗代に施すは播種せんとする数日前より成るべく水を淺くして人糞、鶏灰等と混用し或は先づ是等の肥料を施し置き一兩日を經たる後數倍の乾土と混合して一面に撒布し淺く耙き均して一兩日間其儘放置したる後灌水して播種せしむ

此過磷酸肥料を諸般の畑作物に施すは播種又は移植の際に厩肥、堆肥、人糞、鶏糞、豆粕、油粕、魚肥、草灰等と混して元肥に用ふる可とを又之を追肥に施すも右等の肥料と混用する可とを桑、茶、果樹類の如き樹木にも前記の如き肥料と混合して寒中又は早春と夏季の二回根株の周圍に施し淺く土を被ひ置くべし

調和磷酸肥料

全上 貳圓參拾七錢五厘

調和磷酸は作物生育結實上大切なる磷酸窒素と適當に調和したる肥料にして稻、麥、小麥、菜種其他いづれの作物を問はず他の肥料を施し此調和磷酸のみ單用して効用著しく加ふるは價格低廉なるを以て天下の愛用を蒙り假令は從來の肥料代價五圓のものを用せらるるに比し此調和磷酸參圓より參圓五拾錢を施用して効用は猶從來の肥料の如く粉末よせず其効用なるを以て施用上大に手数を省く最も良用の良肥料なり
此肥料は元肥と追肥とに分施せしむ

特効除虫液

特効除虫液は暗黒色にして臭氣強し

特効除虫液は殺虫力著大なり

特効除虫液は廣布力強速なり

特効除虫液は壹反歩僅に五合乃至壹升五合よして足る

前記の成績より稻作の害虫たる浮塵子、螟蛉等を驅殺するの効あることを證明す

但し稻作の葉上より灌注せず既定の用量を水面より滴下して害虫を拂ひ落して驅殺するものとす

製造元

播磨國 別府港 多木製肥所

石見國 一手販賣

濱田 牛市町 松岡 熊太郎

磁器陶器商

並二

御印入焼付調進

濱田田町

三浦為治

醬油釀造販賣

酒類並ニ荒物商

濱田北町

長橋清次郎

煙草小賣商

濱田片庭町

増本常三郎

度量衡器

販賣仕候間多少ニカ
ハワラフ御買取奉冀
候

濱田蛭子町
岩間度量
衡器製造

販賣所

庄新報

濱田新町

戸津川精一

和洋瓶詰酒類醬油ラム子大販賣



濱田京町

森脇商店

店主森脇己太郎

濱田新町

日進活版所

石本文次郎

磁器陶器所

何印入焼付調進

全三浦物治

●度器 ●量器 ●秤器

田中町
長橋清次郎
石本庄三郎

醬油醸造販賣

酒類並三光物商

長橋清次郎

石本庄三郎

石本庄三郎

速報

濱田新町

戶津川精一

濱田京町

森脇商店

店主森脇己太郎



和洋瓶詰酒類醬油ラム子大販賣

濱田新町

石本文次郎

日進活版所

精米雜穀
乾物青物
販賣

蘭生糸屑物賣買

濱田牛市町

㊦ 德田巳之八

電信略名(〇ト)

精米
雜穀

販賣

蘭生糸屑物楮皮半紙賣買

濱田牛市町

㊦ 高橋淺吉

電信略名(ツカアサ)

萬反物荒物商

並二帽子製造

濱田牛市町

㊦ 德田半四郎

蘭生糸
屑物類

仲買商

濱田港牛市町

㊦ 菊野國吉

物貨委託販賣問屋

各國漚船元扱

地燒陶器瓦販賣

米穀扱苧商

石見國温泉津港

商號米屋

米 松浦多三郎

度量衡
火藥類
販賣

石見國遼摩郡温泉津
油屋事

多田德太郎

改良眞黑瓦
普通赤瓦

堅牢且ツ光澤アリ御試使
之上其品位ヲ知ラルヘシ

遼摩郡温泉津上市 尹戸幸四郎

土木請負
木材仕出

濱田新町

波多兼吉

濱田片庭

波多伊三郎



清酒醬油類販賣

米 伯 子 蒼

濱田原町

稻田支店

藥品 賣藥 化粧品 西洋酒 ミルク

牛痘苗 販賣

ちふてりあ血清
井ニ 繻帶材料
金銀銅ニツケル鍍金術及
衛生的試験ノ依頼ニ應ス

石州濱田新町
永田商店

和洋小間物雜貨

並ニ

毛糸あみ物類調達

濱田新町

安達富次郎

宇治御茶所

並ニ 印判彫刻

濱田新町

石田松次郎

寫眞

一通常紙

一引延

一アリスト紙

一プロマイド紙及日光紙

一マツト紙

モテ如何ナル小板コテ

一フラナナ紙

モ自由ニ大板ニ撮影ス

一日光紙

其他御好ニ應ス

一プロマイド紙

濱田新町

藤井寫眞館

那賀郡有福温泉場

三階事

近重唯市

有福温泉ハ那賀郡ノ東部邑智郡ニ通ス
ル有福村字湯谷ニアリ濱田ヲ距ル東五
里弱其大津ニ至ルノ間(四里弱)ハ松江
ニ通スル國道ニシテ大津ヨリ分レテ二
種道邑智郡市山道ニ入ル一里弱ニテ達
スヘシ近來車道ヲ改修シ大ニ浴客ノ便
ヲ與フ浴室ハ優等及上中下ノ四等ニ分
ツ、無色透明ニシテ温度ハ泉源ニ於テ
四十三度強ヲ示ス而シテ主治効用ハ左
ノ如シ

消化不良 腸胃加答兒

腺病 氣管支加答兒

子宮病 リニーマチス

骨系諸症 皮膚病

腦充血 貧血諸症

旅

觀泉樓

館

樋口安次郎

有福温泉場

吳服太物
洋及物

卸小
賣商

並二 小間物 荒物

宇治茶油類

八神屋店 八神勘次郎



釀造元

石見國 豐摩郡 大國

安井商店

吳服太物
洋反物

卸小賣商



橫田商店

石八神屋

並ニ小間物荒物雜貨

和洋

藥種

各國有名賣藥大取次
醫療諸器械及藥用洋酒類
繪具染料品

兼

各國

刻卷

煙草卸小賣

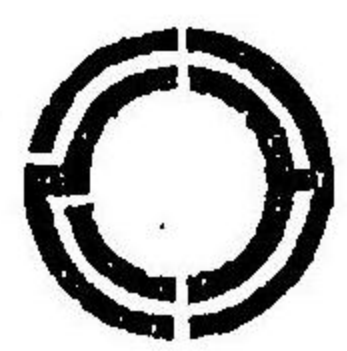
商號

池田眞榮堂

石見江津

株式會社江津銀行廣告

- 諸預リ金ハ總テ一口五圓以上ナレハ之ヲ預リ御引出ハ何程ノ少額ニテモ拂渡シ專ラ花客ノ御便利ヲ旨トシ取扱可申候
- 貸付、手形割引、荷爲替、代金取立、其他銀行一般ノ業務ハ簡便ニ取扱可申候
- 送金、荷爲替等ハ各樞要ノ地ニ取組先有之候ニ付迅速便利ニ取扱可申候



株式會社

江津銀行